

關スル請願 (特別報告第六六二號) 下田港修築ノ請願 (特別報告第六六三號) 波見、柏原兩港修築ノ請願 (特別報告第六六四號) 網走港擴張ニ關スル請願 (特別報告第六六五號) 高須川「ダム」築設ノ請願 (特別報告第六六六號) 上市場、七井戸間町村道ヲ縣道ニ編入ノ請願 (特別報告第六六七號) 災害土木費國庫補助規程改正ニ關スル請願 (特別報告第六六八號) 炭素弧光燈ニ依ル光線療法ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第六六九條) 鹿屋町ニ簡易保險健康相談所設置ノ請願 (特別報告第六七〇號) 白石町ニ簡易保險健康相談所設置ノ請願 (特別報告第六七一號) 濑粉公定價格改定ニ關スル請願 (特別報告第六七二號) 濑粉試驗場設置ノ請願 (特別報告第六七三號) 枕崎漁港改修擴張ニ關スル請願 (特別報告第六七五號) 中津競馬場移轉ニ關スル請願 (特別報告第六七四號) 枕崎漁港改修擴張ニ關スル請願 (特別報告第六七五號) 中津競馬場移轉ニ關スル請願 (特別報告第六七六號) 商工會法制定促進ニ關スル請願 (特別報告第六七七號) 市町村經濟會議所法制定ニ關スル請願 (特別報告第六七八號) 東京府ニ於ケル家庭用綿縫絲生產ニ關スル請願 (特別報告第六七九號) 京都府ニ於ケル家庭用綿縫絲生產ニ關スル請願 (特別報告第六八〇號) 綿絲配給機構調整ニ關スル請願 (特別報告第六八一號) 印刷用紙需給關係改善ニ關スル請願 (特別報告第六八二號) 生繭乾燥ニ對シ石炭配給ニ關スル請願 (特別報告第六八四號) 名寄町ニ運輸事務所設置ノ請願 (特別報告第六八五號) 漬物用空樽原產地返送ニ要スル特別取扱期間延長ノ請願 (特別報告第

六八六號) 長岡鐵道買收ノ請願 (特別報告第六八七號) 九州線運輸改善ニ關スル請願 (特別報告第六八八號) 宮津、網野間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六八九號) 福知山、宮津間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九〇號) 河守町ヲ基點トスル省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九一號) 省營「バス」京鶴線山國支線延長ノ請願 (特別報告第六九二號) 佐原、成東間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九三號) 大島郡ニ省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九四號) 大甕、太田間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九五號) 常陸太田、東館間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九六號) 常陸太田、茂木間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九七號) 上諏訪、霧ヶ峯間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九八號) 土別、溫根別間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第六九九號) 日出鹽驛ニ貨物小口取扱開始ノ請願 (特別報告第七〇〇號) 轟木驛ヲ一般運輸營業驛ニ變更ノ請願 (特別報告第七〇一號) 土樽信號場ヲ停車場ニ昇格ノ請願 (特別報告第七〇二號) 總武本線千葉、稻毛兩驛間ニ中間驛設置ノ請願 (特別報告第七〇三號) 蘇原村字北柿澤地内ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第七〇四號) 北陸本線長濱、虎姫兩驛ノ中間ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第七〇五號) 大戸瀬村大字風合瀬ニ簡易停車場設置ノ請願 (特別報告第七〇六號) 下仁田、三反田間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七〇七號) 納内、下蘆別間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第

七〇八號)石見益田驛、本郷間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七〇九號)北陸本線改良工事施行ニ關スル請願 (特別報告第七一〇號)松本、高山間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七一一號)中津、下呂間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七一二號)長倉線鐵道速成ノ請願 (特別報告第七一三號)新宮、若櫻間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七一四號)黑澤尻、摺澤間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七一五號)高知、宇佐間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七一六號)土讚線豐永驛及土佐山田驛ヲ起點トシ大柵ニテ合シ日和佐驛ニ至ル鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七一七號)大杉、新居濱間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七一八號)宇都宮、青森間複線敷設ノ請願 (特別報告第七一九號)邊富内線工事促進並十勝分岐點ニ關スル請願 (特別報告第七二〇號)吹田、龜岡間鐵道ヲ豫定線ニ編入ノ請願 (特別報告第七二一號)勝田、上菅谷間交通連絡ニ關スル請願 (特別報告第七二二號)一戶、荒屋間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七二三號)宇和島、窪川間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七二四號)札幌、増毛間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七二五號)羽幌、名寄間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七二六號)高原驛舎 改築擴張ニ關スル請願 (特別報告第七二七號)山田線中宮古、釜石間簡易線改良工事施行ノ請願 (特別報告第七二八號)清水港驛貨物引込線延長ノ請願 (特別報告第七二九號)總武本線千葉、銚子間電化促進ノ請願 (特別報告第七三〇號)仁方、北條兩港ヲ中國四國鐵道連絡港ニ指定ノ請願 (特別報告第七三一號)北

海道鐵道沼ノ端、苗穂間買收ノ請願 (特別報告第七三二號)金鷄勳章拜受者ニ國有鐵道無料乘車券下附ノ請願 (特別報告第七三三號)德島驛ニ奏任官驛長配置ノ請願 (特別報告第七三四號)赤河内村ニ於ケル鐵道建設工事ニ因ル減水ニ關スル請願 (特別報告第七三五號)福井村ニ於ケル鐵道建設工事ニ因ル減水ニ關スル請願 (特別報告第七三六號)鹿島、佐世保間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七三七號)豐浦、定山溪間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七三八號)弘前、田代間鐵道豫定線延長ノ請願 (特別報告第七三九號)弘前、田代間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四〇號)須賀川、長沼間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四二號)穴水、飯田間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四三號)松山、佐川間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四四號)湯前、杉安間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四五號)川口、只見間鐵道速成ノ請願 (特別報告第七四六號)藻琴、川湯間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第七四七號)鐵道未成線釜石線ヲ釜石市大字平田迄延長ノ請願 (特別報告第七四八號)七尾、金澤間鐵道改良及七尾、金澤間縣道ヲ軍事用國道ニ編入ノ請願 (特別報告第七四九號)松橋驛、三角港間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五〇號)天草郡ニ省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五一號)相浦、江迎間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五二號)平屋、知井間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五三號)平戶島ニ省營自動車運輸開始其ノ他

ノ請願 (特別報告第七五四號) 富島、南郷間及東郷、椎葉間ニ省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五五號) 櫻島、内之浦間省營自動車運輸開始其ノ他ノ請願 (特別報告第七五六號) 都城、鹿屋間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五七號) 甲府、興津間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七五八號) 韮崎、川上間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第七六〇號) 下川沿村地内ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第七六一號) 南谷村大字泰久寺ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第七六二號) 志布志線榎原、大東兩驛間ニ停車場設置並榎原驛改築擴張ノ請願 (特別報告第七六三號) 東八橋驛々名改稱ノ請願 (特別報告第七六四號) 青森、室蘭間連絡航路國營ニ關スル請願 (特別報告第七六五號) 朝鮮ニ衆議院議員選舉法施行ノ請願 (特別報告第七六六號) 葛丸川沿岸耕地整理組合脱退ニ關スル請願

以上ノ報告書ハ昭和十五年三月二十三日議長ニ提出ス

昭和十五年三月二十四日議事日程ノ順序ヲ變更シテ右請願特別報告ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長清寛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程致サレマシタ請願特別報告ニ關シ、請願委員會ノ經過並ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、本委員會ハ昨年ノ十二月二十七日、第一回總會ヲ開キマシテ、委員長及理事ノ互選ヲ行

ヒ、引續キ總會ヲ開クコト十三回、分科會ヲ開クコト十回ニ及ンダノデアリマス、受理致シマシタ所ノ請願件數ハ千二百六十六件デアリマス、大略其ノ内容ヲ申上ゲマスルト、本年ハ紀元二千六百年ニ當リマスノデ、紀元二千六百年紀念祝典事業ニ關スル種々ノ慶賀事業、神社ノ昇格等ノ請願ガ相當ニゴザイマシタ、次ニ聖戰第四年ヲ迎ヘテ、銃後ノ護ヲ益々鞏固ニスベキ種々ノ銃後對策ニ關スル請願ガアリマシテ、國民ノ聖戰ニ對スル強ク正シキ認識アルコトヲ感ゼシメマシタ、今議會ニ於ケル請願ノ最モ著シキ傾向ト致シマシテハ、適正ナラザル配給統制並ニ公定價格ノ是正ニ關スルモノガ多數ゴザイマシタ、之ニ依ツテ吾々ハ政府ノ所謂統制經濟ニ對スル運用方法並ニ其ノ狀態ガ不完全不圓滑デアルト云フコトガ認めラレタノデアリマス、早害ガニ對シ救済ヲ要望スル請願ガ二百十四件ノ多數ニ上ツテ居ルノデアリマス、如何ニ其ノ早害ガ西日本ノ農村ニ打擊ヲ與ヘタカト云フコトヲ物語ルモノデアリマス、以上ニ付キマシテ本委員會ハソレレ、紹介議員ノ説明ヲ求メ、之ニ對スル政府ノ意見ヲ徵シマシテ、審議致シマシタ結果、採擇スベキモノト議決致シマシタモノガ千一百一件、政府ニ參考トシテ送付スベキモノト決定致シマシタモノガ百六十件、採擇スベキモノニアラズト議決致シマシタルモノガ一件、取下ヲ許可致シタモノガ四件デアリマシテ、合計千二百六十六件、即チ受理致シマシタル請願ノ全部ヲ議了致シタ譯デアリマス、尙ホ委員會ノ審議狀態ノ詳細ハ速記録ニ依ツテ御承知置テ願ヒタイト存ジマス、右御報告申上ゲマス

院議異議ナク右各請願特別報告ハ委員會報告ノ通採擇スルニ決シ即日夫々意見書ヲ附シ政府ニ送付セリ

二 (特別報告第二四一號) 西日本早害救済ニ關スル請願外二百十三件

(特別報告第二四一號)西日本旱害救済ニ關スル請願外百三十四件
右報告書ハ昭和十五年三月八日議長ニ提出ス

(特別報告第三九六號)西日本旱害救済ニ關スル請願外三十五件
右報告書ハ昭和十五年三月十五日議長ニ提出ス

(特別報告第五二六號)西日本旱害救済ニ關スル請願外十五件
右報告書ハ昭和十五年三月十八日議長ニ提出ス

(特別報告第六一二號)西日本旱害救済ニ關スル請願外十二件
右報告書ハ昭和十五年三月二十一日議長ニ提出ス

(特別報告第六五一號)西日本旱害救済ニ關スル請願外十三件
右報告書ハ昭和十五年三月二十二日議長ニ提出ス

右各請願特別報告ハ目的同一ノ議案議決ノ結果先例ニ依リ採擇ト看做シ三月二十五日夫々意見書
ヲ附シ政府ニ送付セリ

三 (特別報告第六八三號)水郡線敷設ニ因ル鑛區侵害補償ニ關スル請願

(特別報告第六八三號)水郡線敷設ニ因ル鑛區侵害補償ニ關スル請願

右報告書ハ三月二十三日議長ニ提出ス

右請願特別報告ハ院議ニ上ラサリキ

第三章 質問

本期議會ニ提出セラレタル質問主意書ハ八件ニシテ内書面答辯アリタルモノ六件、口頭答辯アリタルモノ一件、撤回シタルモノ一件トス及答辯緊急質問ハ二件ニシテ内一件ハ撤回セラレ一件ハ口頭答辯アリタリ其ノ質問及答辯左ノ如シ

一 英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉致シタル事件ニ關スル質問

昨二十一日午後零時半日本郵船株式會社汽船淺間丸カ野島崎沖ヲ航行中突如英國巡洋艦ニ停船ヲ命セラレ臨檢ヲ受ケタル後獨逸人乗客二十一名ハ拉致セラレタリト謂フ

一 政府ハ右英國軍艦ノ行爲カ國際公法ニ合シタルモノナリト考フルヤ一九〇九年「ロンドン」宣言第四十七條ニハ「敵國軍ニ編入セラレタル一切ノ人員ニシテ中立商船内ニ在ル者ハ該船舶ヲ拿捕スルコトヲ得サル場合ト雖モ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得」ト在リ然レトモ獨逸及我カ國ノ如キ徵兵制ヲ布ケル國ニ於テハ豫後備ノ軍籍ニ在ル者ト雖未タ召集ヲ受ケサル者ハ軍ニ

編入セラレタル者ト爲スヘキニ非サルコトハ勿論ナリ又英國大使館側ノ言明トシテ商船士官及乗組員ハ之ヲ俘虜ト爲シ得ル如ク陳述シタリト傳ヘラルルモ海戰ニ於ケル捕獲權行使ノ制限ニ關スル條約(一九〇七年)ニ於テモ捕獲シタル商船内ニ於ケル船長及職員ヲ俘虜ト爲スノ規則アレトモ中立船内ニ在ルトキハ曾テ船長又ハ船員ノ經歷アル者ト雖俘虜ト爲スコトヲ得スト考フ政府ハ英國軍艦ノ處置ヲ適法ナリト考フルヤ

二 コレヨリ先本月十三日我カ海軍省係官ハ在京英國大使館附武官ニ對シ現ニ軍籍ニ在ル場合以外ハ之ヲ拉致セサルヤウ申出ヲ行ヒ越ヘテ十五日ニハ重光駐英大使ヨリ直接英國政府ニ對シ同様趣旨ノ申出ヲ爲シタルカ如シ然ルニ英國側ハ今日ニ至ル迄右交渉ニ對シ何等ノ回答ヲ爲サス今回ノ處置ニ出テタルモノノ如シ斯ノ如キハ國際禮讓ニ反シ我カ國ニ對シ非友誼的行爲ナリト考ヘサルヤ政府ノ所見如何

三 獨リ今回ノ事件ノミナラス近時英國軍艦カ我カ近海ニ出沒シ頻々トシテ我カ國船舶ニ對シ停船要求其ノ他ノ行爲ヲ爲スカ如シ斯ノ如キハ帝國ノ威信ヲ害スル不遜行爲ナリト考ヘサルヤ政府ノ所見如何

四 本件ニ關シ政府ハ如何ナル處置ヲ執リタルヤ
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十五年一月二十二日清瀬一郎君提出ス三月十九日有田外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、帝國政府ハ今次英國軍艦ノ行動ヲ國際法上適法ナラスト思考ス
英國政府ハ公海ニ於テ平和航海ニ從事シ居ル中立船舶ヨリ拉致シ得ル敵國人ノ範圍ニ付テ規定シ居ル「ロンドン」宣言第四十七條ニ獨得ノ解釋ヲ加ヘ且「ロンドン」宣言ハ調印國ニ依リ批准セラレ居ラス從テ何等拘束力ナキモノナリトシ而シテ平和的航海ニ從事スル中立船舶ヨリ敵國人ヲ拉致スル慣行ハ國際法上確立セラレタル原則ナリト主張シ居レリ併シナカラ帝國政府ノ見解ニ依レハ「ロンドン」宣言第四十七條ハ英國側見解ノ如ク解スヘキモノニ非サルコトハ當時ノ關係書類ニ依ルモ明瞭ニシテ又「ロンドン」宣言ハ批准セラレサリシト雖モ同宣言カ海戰ニ關スル種々ノ主義ノ合理的ナル調整及妥協ヲ組成スルモノナリト認メラレ多數ノ國ニ於テ其ノ國內法ヲ以テ之ニ遵依シ居ル事實ニ顧ミ國際法上ノ準則タルヘキモノナリ更ニ若シ英國側主張ノ如ク同宣言ヲ全然無効ナルモノトセハ寧ロ公海ニ於テ平和的航海ニ從事スル中立船舶ヨリ敵國人ヲ拉致シ得ストスル一般原則ニ從フヲ要スルモノナリ
- 二、英國政府ハ斯カル理由ヨリシテ英國軍艦今次ノ行動ハ適法ナラスト思考スルモノナリ
帝國政府ハ交戰國抑留ニ關スル帝國政府ノ見解ヲ承知シ居ルニモ拘ラス之ヲ無視シ且帝國領土至近ノ距離ニ於テ今次ノ如キ行動ヲ執レルハ非友誼的行爲ナリト思考ス
- 三、英國軍艦ノ帝國近海ニ行動セル主目的ハ本邦領域内ニ遁入シ居ル獨國船舶ノ脱出ニ備ヘ居ルモノト認メラレ之カ爲疑ハシキ船舶ヲ尋問臨檢スルハ交戰國軍艦トシテ一般ニ認メラル權利ナルモ帝國領域ニ甚シク接近シテ帝國船舶ノ行動ヲ阻碍スルカ如キハ禮讓ニ反スルモノト思考ス仍テ政府ハ右ノ如キ場合ニ於テハ其ノ都度注意ヲ喚起シ居レリ
- 四、本件ニ關シ政府ノ執リタル處置ハ既ニ二月一日及二月六日日本大臣ヨリ帝國議會ニ報告シタ

右及答辯候也

右答辯ニ對シ同日清瀬君ハ意見ノ陳述ヲ爲セリ

二 北海道廳長官ノ白米卸賣價格指定ニ關スル質問

地方長官ハ價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ白米小賣價格ヲ指定シ得ルモ白米卸賣價格ニ關シテハ同令第十五條ニ定メラレタル主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ效力ナキニ拘ラズ北海道廳長官ハ昭和十四年十一月十二日道廳告示第二一六八號及同年十二月十九日道廳告示第二二八六號ヲ以テ白米卸賣價格ヲ指定シ生産者、生産者團體及產地卸賣業者ニ之ヲ強行シ損害ヲ與ヘツツアルハ越權且失當ノ處置ナリト認ム政府ノ所見如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十五年二月一日北勝太郎君提出ス三月二十六日提出者質問ヲ爲シ加藤商工政務次官答辯ヲ爲ス

北勝太郎君ノ質問

北海道長官ノ白米卸賣指定ニ關スル件ニ付キマシテ、今期議會再開ノ劈頭ニ於キマシテ、質問書ヲ提出シタノデアリマス、爾來六十日ニ垂ントスル今日、未ダニ當局ハ名ヲ調査ニ藉リマシテ、答辯ヲ爲シ得ナイノデアリマス、是ハ一見明瞭ナル法規ノ解釋事項デアリマシテ、價格等統制令第十五條及ビ同統制施行令第十二條ノ命ズル所デアリマス、然ルニ商工省當局ノ中ニハ、唯此ノ場面ヲ收拾センガ爲ニ、白米ノ卸賣ノ指定ハ、商工省ノ所管ナリト苦シキ辯解ヲスル者ガアルノデアリマスガ、既ニ島田農林大臣ガ豫算委員會其ノ他ニ於テ屢々答ヘラレテ居リマスル通り、米ニ關スル限り、農林大臣ノ主管事項デアルト言ツテ居ラレルノデアリマスシ、又現ニ白米ニ關シマシテ、昭和十四年十一月六日發セラレマシタ所ノ、農林商工兩省ノ告示第九號ガ、雄辯ニ之ヲ物語ツテ居ルノデアリマス、即チ若シ白米卸賣價ガ商工省ノミノ所管デアルトスルナラバ、兩省ノ告示ト爲ス筈ハナイ、加之是ガ農林省ノ主管デアリマスルガ故ニ、農林省ガ主務省トシテ、此ノ告示ノ事務ヲ農林省自體ガ取扱ツテ居ルノデアリマス、而シテ又現ニ本件ニ關スル答辯モ、主務省トシテ農林省ヲシテ其ノ答辯ニ當ラシムル爲ニ、質問書ハ農林省ニ同付セラレテ居ルト云フコトデアリマス、又北海道長官モ是程明瞭ナ事柄ヲ、殊更ニ主務省ニアラザル商工省ノ指示ヲ受ケタリトシテ、商工省ノ白米小賣價格指定ニ便乘致シマシテ、無理無法ニ管下ノ産業組合ノ頭ヲ抑ヘヨウトスル魂膽カラヤツテ居ルコトハ明カナノデアリマス、其ノ他戸塚長官ノ北海道ニ於ケル産業組合不當壓迫ハ數々アルノデアリマスガ、洵ニ目ニ餘ルモノガアリマスケレドモ、今日ハ之ヲ差控ヘマス、兎ニ角本問題ハ、日本全國中全ク他府縣ニ例ヲ見ザル不都合極マル告示ヲ、斯クマデシテ出シタコトハ、餘リニモ明瞭デアアルノデアリマス、是程明瞭ナル事件デアリマスルガ、何故ニ速ニ明確ナル答辯ヲ爲サレヌノデアリマスカ、全ク了解ニ苦シム次第デアリマス、本日ハ會期ノ終了日デアリマス、政府ハ速ニ明確ナル答辯ヲ爲スベシトノ要求ヲ爲スモノデアリマス

加藤商工政務次官ノ答辯

北君ノ御質問ニ御答致シマス、此ノ問題ニ付キマシテハ、先般本會議ニ於テ御答致シマシタ如ク、北海道長官ガ爲シマシタル小賣米ノ指定價格ノ問題ニ付テハ、何等差支ナキモノデアルト信ズルノデゴザイマス、右御回答致シマス

三 國民融和ニ關スル質問

一 君萬民ノ我カ國ニ於テハ均シク 陛下ノ赤子ニシテ其ノ間忌ムヘキ賤視、差別待遇ノ存在ヲ許ササルハ言フ俟タス殊ニ我カ國カ八紘一字肇國ノ大理想ニ基キ東亞新秩序ノ建設ニ邁進シツツアルトキ之カ指導的地位ニアル我カ國內ニ於ケル國民融和ノ完成ハ道義的民族協和ノ先決問題トシテ現下重大ナル意義ヲ有ス

然ルニ今尙國體ノ本義ニ反スル部落問題存在シ今次事變以來戰線統後ニ頻々トシテ差別事象ノ惹起シツツアルハ洵ニ寒心ノ至リニ堪ヘス惟フニ歴史の社會的結果トシテ社會ノ經濟、文化上不遇ノ地位ニ置カレタル被差別地區ノ現狀コソ部落問題存在ノ要因ナリ依テ政府ハ之カ對策ヲ一層擴充徹底セシムルト共ニ被差別者及一部關係者ノミナラス國民協力官民一致ノ下ニ融和問題ノ完全解決ヲ圖ルコトハ現下ノ急務ナリト考ヘサルヤ所見如何

右及質問侯也

右質問主意書ハ昭和十五年三月十一日松本治一郎君提出シタルモ翌十二日提出者之ヲ撤回セリ

四 官紀振肅ニ關スル質問

本議會ニ提出セラレタル會計検査院ノ昭和十三年年度歳入歳出決算検査報告ニ依レハ同年度ニ於ケル豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項ハ殆ト至各省ニ互リ總テ四十八件金額ニ於テ三千五百八十二萬餘圓ノ巨額ニ上リ外ニ國有財産ノ管理其ノ宜シキヲ得サルモノ一件アリ而シテ之ニ對スル當局ノ答辯ハ大體ニ於テ其ノ不當不法ナルコトヲ認メ又ハ然ラサル旨ヲ釋明セルモノモ多クハ之ヲ認ムルコトヲ得サル迄ニ理由薄弱ナルカ如キ如何ニ官紀ノ弛緩セルカヲ窺フニ足ルヘク如キハ單ニ同年度ノミナラス年々繰返サレツツアリ而モ此ノ檢出セラレタルモノハ不當不法行爲ノ全部ニハ非スシテ他ハ概ネ既ニ何カノ機會ニ於テ上司等ニ發見セラレテ穩便ニ解決シタルモノアリ或ハ賠償等ノ責ヲ果サスシテ誠首免官サレ何人カカ之カ辻褄ヲ合セテ漸ク檢察ノ目ヲ免レタルモノアリ

是レ今日官吏ノ間ニ減私奉公ノ至情殆ト缺如シ却テ己一個ノ榮達ヲノミ希ヒ其ノ及ハサルヲ知

ルニ至リテハ姑息偷安ニ流レテ其ノ職ヲ曠ウシ甚シキハ其ノ地位職掌ヲ利シ機ヲ見テハ奇貨居クヘシトシテ私腹ヲ肥シ國家公共ヲ害毒セムトスルノ徒良吏ノ間ニ介在セルニ依ラスムハ非ス今ヤ時局ニ伴ヒ國家ノ財政頓ニ膨脹シ事業施設愈複雑多岐トナリ從テ出納件數竝金額モ數年前ノ比ニアラス彼等不良ノ徒ノ惡事ヲ爲サムトスル好機到レルモノト謂フヘシ寔ニ寒心ニ堪ヘサルナリ今ニシテ厲聲一番戒飭ヲ爲シ之ヲ取締ルノ實ヲ舉ケムトスルハ遂ニ悔エトモ及ハサルヘシ

- 一 政府ハ斯ル惡氣風ノ相當深刻ニ一部吏僚間ニ浸透セルヲ認ムルヤ
- 二 吏僚間ノ自由主義、功利主義、立身出世主義ノ弊風芟除ノ爲如何ナル方策ヲ執ラムトスルカ
- 三 分限分ノ運用宜シキヲ得ル爲ノ如何ナル用意アリヤ
- 四 官吏身分保障令撤廢ヲ斷行スル意志アリヤ
- 五 今後豫算ノ執行上斯ル惡事(背任、横領、瀆職、收賄等)ヲ根絶スルニ如何ナル具體的方法ヲ執ラムトスルカ
- 六 各官廳吏員ノ出廳退廳ノ現狀ヲ以テ服務上總テ適正ナリト思惟スルヤ
- 七 各省各局各課ノ間ニ於テ著シキ事務繁閑ノ差アルヲ如何ニ是正セムトスルカ

右及質問侯也

右質問主意書ハ昭和十五年三月十四日會和義式君提出ス同月十九日米内内閣總理大臣及櫻内大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

政府ハ會計検査院ノ報告ニ鑑ミ今後一層執務ノ監督ニ意ヲ用ヒ官吏ノ指導訓練ニ付遺憾ナキヲ期シ度キ考ナリ、尙官吏制度ニ付テハ慎重考究ノ上善處セントス

右及答辯候也

五 帝國議會會期算定ニ關スル質問

帝國議會常會ノ會期三箇月ナルコトハ憲法第四十二條ノ明示スル所ナリ從テ平年十二月下旬召集セラルル議會カ翌年三月ニ於テ開院式ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了スルコトハ疑ナク而シテ其ノ日數カ九十日ナルコトモ亦議論ノ餘地ナシトス然レトモ本年ハ閏年ニシテ二月ハ二十九日ナルヲ以テ會期計算ニ多大ノ疑問ヲ生ス若一箇月ヲ三十日ト算スレハ三月二十四日ヲ以テ終了スヘク又開院式ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了スルモノトスレハ即チ三月二十五日ナルヘシ之ヲ先例ニ徵スルニ最近ノ閏年ハ孰レモ解散ニ遭遇シテ其ノ適用ヲ見ス而シテ貴族院ノ先例錄モ衆議院ノ先例彙纂モ漫然一箇月三十日說ヲ採ルノ記載アルノミニシテ其ノ根據ヲ示スコトナ

シ一般ニ通用スル所ハ私法法規ノ規定(民法第四百十三條第二項)ノ如ク開院式ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了スルニ在リ然ルニ議會ノ會期三箇月ノ規定ヲ九十日ナリト算定スル根據ハ本員寡聞ニシテ之ヲ知ルコトヲ得ス是レ特ニ政府ニ對シテ右會期ハ終了日開院式ノ應當日ノ前日ナリヤ將又九十日ナリトスルヤヲ質問スル所以ナリ願クハ法的根據ヲ示シテ其ノ疑惑ヲ一掃セラレムコトヲ望ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十五年三月二十日志賀和多利君提出ス同月二十三日米内内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

帝國議會會期ノ算定ニ關シテハ一箇月ヲ三十日トシ日ヲ以テ計算スルコトニ明治二十四年二月決定セラレ第一回帝國議會以來引續キ是ニ依レリ

右及答辯候也

六 英國汽船フアムサム號ノ維新丸追突大破竝堀川芳史氏溺死事件ニ關スル質問

(一) 支那事變勃發以來支那ニ於ケル英國人ノ不遜非道ノ振舞ハ憤慨ニ堪ヘサルモノ多シ就中

最近ニ於ケル事實トシテハ昭和十四年十月二十日午前八時半頃上海東光公司ノ維新丸カ十月十六日沈没セル新太古丸乗客東光公司社員梅津良平氏ノ屍體捜査ノ爲支那黃浦江河口「イースト」二號浮標附近ニ於テ作業中英國汽船上海怡和洋行「フアムサム」號(船長ビー・スミス)カ維新丸ニ追突シ「デーゼルエンジン」ヲ大破シ更ニ激震ノ爲甲板ニ作業中ノ邦人八名中三名ヲ河中ニ墜落セシメ二名ハ我陸軍機艇ニ依テ救助セラレタルモ他ノ一名山口高等商業學校卒業生ニシテ二十一歳ノ前途有爲ノ青年東光公司社員堀川芳史氏ハ水中ニ沈下後一度浮ヒ上リ「フアムサム」號ニ救命器ノ投下ヲ求メタルモ英船員等ハ之ヲ目撃シ嘲笑スルノミニシテ何等救助ノ手段ヲ執ラス爲ニ堀川芳史氏ハ再ヒ沈下シテ遂ニ行衛不明トナレリ屍體ハ今尙發見セラレサルモ十一月九日附上海吳淞水上警察署長蓮尾隆祐氏竝同日附吳淞憲兵分隊ノ證明書ニ依リ溺死セルモノト認メラル政府ハ此ノ事實ヲ如何ニ處理シツツアリヤ

(二) 昭和十四年十月二十一日附上海毎日新聞竝同日附大陸新報ハ共ニ五段抜ヲ以テ「激突遭難の維新丸を當の英船が默殺」「溺死者見殺し乗客英人の非人道を語る」「不埒極まる英國汽船我船員を見殺す」「苦悶のさきを嘲笑ふ」「拳銃を突つけて威嚇抗議の社員を追拂ふ」等ノ初號活字ノ見出ノ下ニ大々的且詳細ナル記事ヲ報道シ居レリ當時維新丸甲板ニ作業中ナリシ東光公司技師長瀧川孝吉氏ハ傍ノ柱ニシガミ付キ漸ク墜落ヲ免レタルカ其ノ際ノ模様ヲ語り

テ曰ク「甲板ヨリ振落サレシ三人ハ押流サレテ英船ノ船尾ノ方ニ流レ行キ維新丸ヨリハ遠サカリテ救助ノ手及ハス彼等ハ水中ヨリ手ヲ上ケテ英船ニ救ヒヲ求ムルコト頻リナリシモ英船員等ハ之ヲ嘲笑スルノミニシテ何等救助作業ヲ行ハス此時附近ヲ航行中ナリシ我陸軍片倉部隊ハ機艇ヨリ「ロープ」ヲ投シタルニヨリ二名ハ救助セラレタルモ堀川芳史氏ノミハ遂ニ沈下シ行衛不明トナリタリ」ト英國船「フアムサム」號ノ此ノ不法ナル追突ト人命救助ヲ故意ニ爲ササリシ非人道的態度ニ對シテ政府ハ如何ナル處置ヲ執リタルカ

(三) 邦船維新丸ニ追突シ而モ之カ爲ニ水中ニ振落サレタル邦人ノ救助ヲ求ムルヲモ願ミスシテ其ノ一名ヲ溺死セシメタルニ抗議セムトシテ英船「フアムサム」號ニ赴キタル東光公司社員青柳精一郎氏ニ對シ英船員ハ拳銃ヲ突付ケテ之ヲ阻止シ船長ハ面會ヲ拒絕シテ航走シ去リタル不法非道ナル措置ニ對シテ政府ハ如何ナル處置ヲ講シタリヤ

(四) 在上海日本總領事館梅川磯野兩領事ハ英船「フアムサム」號事件ニ付英國總領事館ヨリ
 (1) 維新丸ノ操舵室ノ構造カ後方ノ見エサル裝置ニナリタルコト
 (2) 維新丸カ無警告ニテ舵ヲ曲ケタル爲追突セルモノニテ「フアムサム」號ニ責任ナキコト
 (3) 「フアムサム」號カ追突シタル爲維新丸乗員カ河中ニ墜落シタルコトハ「フアムサム」號ハ認メサリシコト

(4) 「フアムサム」號追突後遭難者救助ノ様子カ見えサリシコト
ノ回答ヲ受ケタリトテ「フアムサム」號ニ責任ナク從テ英國ノ習慣トシテ死者ニ對シテハ弔慰
金サヘモ贈ラサルヲ當然ナリトセリト云フ果シテ政府ハ日本領事ノ言ヲ認メ之ヲ是ナリトス
ルヤ

(五) 英國領事館ノ回答ナルモノハ卑劣ニシテ野蠻人ニ非サレハ敢テセサル遁辭ニ過キサルト
共ニ「フアムサム」號ノ責任ノ重大ナルコトハ左ノ理由ニ依リ明白ナリ

(1) 維新丸ハ先行シ英船「フアムサム」號ハ後方ヨリ進ミ來レルコトハ明白ナル事實ナルカ故
ニ維新丸ノ裝置ノ如何ニ拘ラス「フアムサム」號カ追突シタルコトノ責任ハ斷シテ免ルル能
ハス

(2) 維新丸ハ作業中ナリシモ後方ニ無警告ニ突然大汽船ノ現レタルニ驚キ之ヲ避ケムカ爲方
向ヲ轉換シタルモノニシテ英船ハ追突ノ後始メテ警笛ヲ鳴ラシタルモノナリト云フ此警笛
ノ有無ニ拘ラス責任ハ後方ヨリ追突シタルモノニ在ルコトハ明白ナリ

(3) 「フアムサム」號ハ維新丸ニ追突シタルコトヲ認メ乍ラ維新丸ノ乗員ノ河中ニ墜落シタル
コトヲ認メスト云フト雖モ堀川氏等三人カ水中ヨリ手ヲ上ケテ救命器ノ投下ヲ求メタルヲ
目撃シテ嘲笑シタルニ非スヤ之ニ依リテモ遭難者アルヲ認メスト云フハ非紳士的逃口上ニ

過キササルコト明カナリ而モ被害維新丸ニ對シ挨拶ヲモ爲サス逃ケ去ル行爲ヲ敢テセルニ微
スルモ「フアムサム」號カ責任回避ノ遁辭ヲ弄セルコト明カナリ

(4) 「フアムサム」號カ維新丸ニ追突シタルカ爲ニ激震ニ依リ東光公司社員三名カ水中ニ墜落
シ溺レムトスルヲ英船員ハ目撃シテ嘲笑シ遭難者カ救助ヲ求メタルモ之ヲ放任シテ顧ミス
剩サヘ救助ノ様子ヲ認メサリキト云フト雖モ偶々航行中ノ日本陸軍機艇カ之ニ「ロープ」ヲ
投ケ與ヘテ二名ハ救助セラレタル事實ヨリスレハ追突ノ責任者「フアムサム」號カ之ヲ認メ
スト云フカ如キコトハ常識上アリ得ヘカラサルコトニシテ果シテ之ヲ認メサリシトセハ其
ノ無責任ハ言語道斷ニシテ英船ノ責任ハ更ニ一層重大ヲ加フルコトヲ自白スルモノナリ
然ルニ半歳ヲ經過セル今日其ノ責任ヲ明カニセス何等事件解決ノ曙光タニ見ル能ハストセハ在
上海帝國領事館ノ怠慢眞ニ驚クヘク涉外領事ノ責任重大ナリ政府ハ在外日本國民ノ生命ト財產
ノ保護ニ缺クルコト大ナリト思惟ス之ニ對スル政府ノ所見奈何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十五年三月二十日山道襄一君提出ス同月二十四日有田外務大臣ハ書面ヲ以テ
左ノ答辯ヲ爲ス

本件ニ關シテハ當時日本側關係者ヨリノ陳情ニ基キ在上海帝國總領事館ニ於テ實情ヲ調査シタ

ル結果衝突直前維新丸ノ操作ニ錯誤アリタルモノト認メラレ維新丸所有會社ニ於テモ右事實ヲ認メタルカ英國船ノ執リタル態度ニモ鑑ミ英國總領事ニ對シテハ在上海帝國總領事ヨリ客年十一月十日附ヲ以テ本件經緯ヲ通報シ損害ニ付追テ請求ノ權利ヲ留保スル旨申入レタリ英國總領事ヨリハ客年十二月二十二日附ヲ以テ本件衝突ニ依リ日本人一名ノ死者ヲ生シタルハ遺憾ナルモ英國船ノ操作ニハ錯誤ナカリシ旨並ニ維新丸ノ損害ハ極メテ輕少ト認メラレ日本側ニ於テ權利ヲ留保セラレタルカ如キ多額ノモノトハ思料セラレス更ニ損害ノ點ニ付調査スルニ非サレハ右損害賠償ニハ應シ難キ旨申越セリ

本件ニ關スル其ノ後ノ現地交渉ノ模様並ニ質問書所載ノ在上海帝國總領事館涉外領事カ英國總領事館同答ニ基キ本件ニ關シ英國船ノ責任ナク從テ英國ノ習慣トシテ死者ニ對シテハ弔慰金サヘモ贈ラサルヲ當然ナリト述ヘタル趣等ニ關シテハ未タ何等ノ報告ニ接シ居ラサルモ政府トシテハ英國船ノ態度ニ鑑ミ嚴重交渉ヲ續ケ所要ノ處置及適當ナル損害賠償ヲ爲サシムル所存ニテ上記ノ點ニ付テハ直チニ現地ニ訓令シ實情ヲ調査セシムルコトトセリ

右及答辯候也

七 鋼材配給統制ニ關スル質問

商工省ハ昨年五月鋼材配給機構ノ整備ノ根本方針ヲ決定シ鋼材ノ圓滑適正ナル配給ト鋼材價格ノ引下ヲ爲シ併セテ配給機關各層ニ於ケル摩擦ヲ排除セムト計リタリ然ルニ現下ノ鋼材配給ノ實情ヲ見ルニ鋼材ノ圓滑適正ナル配給ハ望ムヘクモナク且又配給機關各層ニ於ケル摩擦ハ未タ

其ノ禍根ヲ絶タサル現狀ナリ即チ(一)現在民間ニ於ケル受渡未了切符所謂未處理切符ハ全國ヲ通シ數十萬噸ヲ算スル實情ニ徴セハ之レ即チ配給ノ不圓滑且ツ適正ナラサルコトヲ如實ニ示ス明瞭ナル證左ト謂ハサルヘカラス(二)現在ノ配給各層(指定問屋、特約店)ハ販賣分野明確ナラス指定問屋ハ問屋トシテノ卸賣ノ外ニ圓「ブロック」内輸出特定大口實需ニ直賣スルノミナラス一般實需ノ方面ニ迄侵入シ所謂大口實需ナル名ヲ以テ直賣シ居ル爲配給ノ圓滑ヲ阻害シ配給層ノ摩擦ヲ益、大ナラシメツツアリ中小商工業者(一般民需ノ大部分)ト特約店トハ多年ノ金融上ノ便益其ノ他密接ナル依存關係ヲ有シ切符ノ大部分ハ特約店ニ集中スルモ特約店ノ割當分量僅少ナル爲需給ヲ滿スコト能ハサル現狀ナリ仍テ左ノ如キ諸點ニ關シ政府ニ質問スル次第ナリ

(一) 政府ハ最近ニ至リ未處理切符整理ニ關シ通牒ヲ發シタルカ其ノ原因ヲ究メ生産ノ増大ヲ計ルヘキハ固ヨリナルカ鐵鋼配給統制規則ニ規定セラレタル日本鋼材聯合會ノ引渡濟切符ノ回收ヲ嚴ニシ常ニ生産對消費ト睨合セ調整セサルトキハ再ヒ切符ト生産配給ノ合致セサル惡結果ヲ招來スルニ至ルモノト思惟ス故ニ之ニ對シ政府ハ嚴重監督スル必要アリト思惟スルモ如何

(二) 現在指定問屋ニ許容セラレ居ル一般大口實需(直賣)ヲ廢シ之ヲ全部特約店向トシテ仕向ケルコトトセハ特約店向扱量ハ高率ト爲リ從テ特約店ニ集中セラルル中小工業者ノ切符消化ハ容易ト爲リ配給ノ圓滑且適正ヲ期シ得ルノミナラス現行問屋及特約店ノ口錢ヲ低下セシ

ムルコトヲ得ヘク低物價政策ニ即應シ得ルモノナリ政府ハ指定問屋ノ直賣ヲ禁スル意思ナキ

ヤ
(三) 指定問屋間ニ於テ「プール」計算制ヲ確立シ配給ノ圓滑ヲ期スル意思アリヤ
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十五年三月二十二日中村高一君提出ス同月二十五日藤原商工大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一 鐵鋼需給關係ノ圓滑ナラザルハ需要ノ激增ニ對シ供給ノ之ニ伴ハザル、政府ハ曩ニ鐵鋼配給統制規則ヲ制定シ國家的ニ見テ不急ナル需要ヲ抑制シ緊急ナル用途ヘノ供給確保ニ力メツツアレドモ未ダ必ズシモ所期ノ效果ヲ收メザルハ遺憾ナリ、依テ政府ハ近ク右規則ヲ改正シ生産配給ヲ通ジテ政府ノ監督ヲ嚴重ニスルト共ニ關係業者ノ協力ヲ得テ需給ノ圓滑ヲ圖ラントシツツアリ
- 二 鐵鋼需給ノ調整ハ固ヨリ需要者取扱業者ノ生活ノ安定ヲ等閑ニ付スルニハ非レドモ其ノ要點ハ國家的ニ見テ緊急ナル程度ニ應ジテ圓滑ナル配給ヲナサントスルニ在リ、而シテ政府ガ曩ニ指定問屋及特約店ノ制ヲ認メタルハ右目的ノ達成ノ爲ニハ過去ノ取引事情ニ急激ナル變革ヲ加ヘザルヲ適切ナリト認メタルニ因ルモノニシテ遽カニ指定問屋ノ直賣ヲ禁ズルノ意思ナシ現在特約店扱ニ比シ指定問屋扱ノ數量ガ高率ナルガ如キ觀アルハ指定問屋扱ノ大口實需ガ事實上比較的ニ緊急ナル用途ニ向ケラルルモノナルニ因ルモノナルガ政府モ目下特約店ノ安定ニ付テ考慮中ナリ
- 三 政府ガ曩ニ指定問屋ヲシテ地區別ニ商業組合ヲ結成セシメタルハ當業者ヲシテ時局ニ即シ

タル配給ヲナサシメントスルモノナルガ斯ノ目的ヲ達成センニハ先ヅ一方組合ノ機能ヲ充實セシムルト共ニ他方組合員ヲシテ團體的精神ヲ體得セシムルヲ必要トス、政府ハ右趣旨ニ依テ目下組合及組合員ノ指導ニ力メツツアリ、プール計算制モ右指導ガ適當ナル段階ニ達シタル際採用スベキモノト認メ目下考究中ナリ
右及答辯候也

八 日本發送電株式會社炭鑛不法買收ニ關スル質問

日本發送電株式會社(以下日發ト稱ス)カ昭和十四年十月四日附及同年十二月十九日附電氣廳長官宛ニ爲シタル左記認可申請ハ執レモ不當且違法ニシテ之ヲ認可シタル電氣廳長官ノ處分モ亦隨テ不當且違法ナリト信ス

左記

總事第九三號

昭和十四年十月四日

日本發送電株式會社

甲

總裁 增田次郎

電氣廳長官 平井出貞三殿

第三章 質問及答辯

投資認可申請

今般左記ノ通り發送電興業株式會社へ投資致度候ニ付テハ御認可相成度日本發送電株式會社業務規程第十二條ノ規定ニ依リ此段及申請候也

記

一、投資條件

金額 金壹百八拾五萬圓也

利息 壹錢貳厘五毛

期日 發送電興業ヨリ請求アリ次第

期間 原則トシテ別記鑛業權ヲ他へ讓渡

若クハ處分ノ時迄

方法 約束手形 六拾日切換

二、投資金ノ用途

發送電興業ガ左記石炭鑛業權及石炭試掘出願權ヲ讓受クルニ必要ナル資金

(イ) 珍内鑛區

樺太久春内郡三濱村大字珍内地内官地

樺太鵜城郡鵜城村大字來知志地内官地

石炭鑛業權

十六鑛區

内譯 石炭探掘權

一鑛區

石炭試掘權

十五鑛區

石炭試掘出願中ノモノ二十三鑛區(官廳ノ都合ニ依リ多少ノ減少ヲ見ルコトアルベシ)

(ロ) 内路鑛區

石炭試掘出願中ノモノ四十二鑛區(官廳ノ都合ニ依リ多少ノ減少ヲ見ルコトアルベシ)

三、投資セントスル理由

(一) 石炭資源ノ確保

當社ノ所要石炭量ハ年額六百萬噸ニ垂ントシ逐年漸増ノ趨勢ニアリカカル巨額ノ石炭ヲ市場ヨリ調達スルコトハ極メテ困難ニシテ殊ニ渴水ノ程度ニ依リ年々著シク所要量ノ變動ヲ生ズル當社ノ如キニ於テハ其ノ電力國策ノ重大使命上特ニ石炭資源ノ確保ヲ必要トス
今ヤ石炭販賣統制ハ強化セラレ當社所要炭ノ需給ノ適合ハ圓滑化セラレントスル傾向ニ在リト雖モ當社ノ重大使命ト之ガ遂行ニ必要ナル石炭ノ重要性ヲ顧ル時單ニ政府ノ統制ニノミ依存シテ拱手スルヲ得ザルノミナラズ本邦出炭量ノ上ニ占ムル當社所要炭ノ重大性ニ鑑

ル時ハ進ンデ埋藏資源ヲ掘鑿シ自己所要炭ノ確保ニ資スルト共ニ他面石炭生産力擴充ノ國策ニ寄與セザルベカラズ
コノ趣旨ニ基キ先ヅ樺太ニ於ケル鑛區ヲ獲得開發セントスルモノナリ

(二) 鑛區ノ内容

(1) 埋藏量

推定炭量 可採炭量

珍内鑛區 一八〇、〇〇〇、〇〇〇噸 九〇、〇〇〇、〇〇〇噸

内路鑛區 五〇、〇〇〇、〇〇〇噸 三〇、〇〇〇、〇〇〇噸

(2) 炭質

炭種 發熱量

珍内鑛區 塊 六、〇〇〇カロリー以上

内路鑛區 塊 七、〇〇〇カロリー以上

(珍内鑛區ハ北大教授長尾巧博士ノ保證ニ係ル石川理學士ノ調査報告ニ依ル内路鑛區ハ北大教授長尾巧博士ノ調査ニ基ク)

以上ノ如ク炭量ノ豊富ト炭質ノ良好トニヨリ當社火力發電用原料トシテ好適ナルト同時ニ

之等ノ炭層ハ悉ク密集併走セルヲ以テ採掘方法タルヤ頗ル單純容易ニシテ集約的稼行ニ適合シ創業費及生産費ヲ遞減シ得ルヲ以テ單ニ自家用炭トシテ適性ヲ有スルノミナラズ一般商品トシテモ有利確實ナル採算ノ基礎ニ立ツト云フ事ヲ得ベシ

(三) 發送電興業ヲシテ買収セシムル理由

鑛區買収ノ目的ハ當社所要石炭資源ノ確保ニ資セントスルニ在ルヲ以テ當社ノ營業目的ヲ廣義ニ解釋シ當社ニ於テ直接買収所有シ開發經營ヲナスモ可ナレドモ當社ハ設立日尙淺ク當社直接ノ使命タル發送電事業ニ専念スベキ時機ニ在ルヲ以テ當社ノ直系會社タル發送電興業ニ投資シ之ヲシテ鑛區ヲ買収セシメントス

而シテ發送電興業ハ一時的ニ之ヲ所有スルモノニシテ當社ハ可及的速カニ之ガ石炭採掘會社ヲ創設シ發送電興業所有ノ鑛區ヲ讓渡シ之ガ開發ニ當ラシメ以テ當社所要石炭ノ確保ニ資セントス

追記

之等鑛區ノ開發ハ明年度ヨリ着手シ可及的速ニ多量ノ出炭ヲ行フ爲明年度物動計畫ニヨリ之ガ所要資材ノ割當ヲ受クルベク目下銳意新會社ノ設立計畫ヲ急ギツ、アリ近ク計畫確立ヲ俟テ御報告可致候

總事第一二三號

第三章 質問及答辨

昭和十四年十二月十九日

日本發送電株式會社

乙

總裁 增田次郎

電氣廳長官 平井出貞三殿

投資認可申請

今般左記ノ通り發送電興業へ投資致度候ニ付テハ御認可相成度日本發送電株式會社業務規程第十二條ノ規定ニ依リ此段及申請候也

記

一、投資條件

金額 金九百四拾萬圓也

利率 日歩金壹錢貳厘五毛

取引日 昭和十四年十二月二十七日頃ノ豫定

期限 當分ノ間

形式 約束手形(六十日切替躍ル)

二、投資金ノ用途

發送電興業ガ左記石炭鑛業權及石炭試掘出願權ヲ讓受クルニ必要ナル資金

記

(イ) 鑛區所在地

北海道釧路國 白糠郡白糠村、阿寒郡阿寒村、足寄郡足寄村及螺灣村

(ロ) 鑛區所有者

日滿鑛業、帝國鑛業、豐國鑛業、昭和産業ノ四社

(ハ) 鑛區種類及數

試掘鑛區五十二鑛區 四六、一七五、二四〇坪

試掘出願權 五鑛區 四、七五八、八二〇坪

(ニ) 鑛區ノ内容

推定埋藏量 四五〇、〇〇〇、〇〇〇吨

可採炭量 二五五、〇〇〇、〇〇〇吨

發熱量 六、〇〇〇カロリー以上

三、投資セントスル理由及發送電興業ヲシテ買收セシムル理由ハ曩ニ投資認可申請シ御認可ヲ得タル昭和十四年十月四日總事第九三號記載ノ理由ト同ジニ付省略ス

四、投資金

當社社債金又ハ借入金ヨリ賄フ

即チ其ノ理由トスル所ハ

一 昭和十四年四月遞信省令第十五號日發業務規程ニ定メラレタル各事項ハ總テ法律ノ範圍内ニ於テノミ行ハルヘキモノニシテ之ニ牴觸ス可カラサルハ言フ俟タサルナリ故ニ同規程第十條各號ノ認可事項ハ孰レモ日本發送電株式會社法(以下日發法ト稱ス)第一條ニ基ク營業目的ノ範圍内ニ限ラルヘキハ當然ニシテ右認可申請ニ係ル「投資」モ亦「發電及送電」事業ニ於ケル投資ナラサル可カラサルハ論ヲ俟タス

二 然ルニ日發ハ別紙書面ノ通發送電興業株式會社(以下興業ト稱ス)ノ炭礦事業ニ投資スル旨ヲ以テ其ノ認可ヲ申請セリ若シ日發カ日發法第一條第二項ノ規定ニ依リ附帶業務トシテ炭礦業ヲ營ムコトヲ命令又ハ認可セラレタルモノナラハ其ノ投資ハ適法ナルヘキモ現ニ其ノ命令モ認可モナキモノナル以上右ノ投資申請ハ違法ニシテ許スヘカラサルモノナリ

三 日發ハ別紙書面(甲)ノ「三、投資セントスル理由」ノ(三)ニ於テ「營業目的ヲ廣義ニ解釋シ當社ニ於テ直接買収所有シ開發經營ヲ爲スモ可」ナルモノノ如ク陳述セルモ斯ノ如キハ實ニ法意ヲ紊ルノ甚シキモノト謂ハサル可カラス若シ然ラサランカ發送電事業上必要ナルノ故ヲ以テ電線製造業、セメント業、木材業等々ヲモ日發法第一條第二項ノ命令又ハ認可ナクシテ

自由ニ營ミ得ルト謂フノ結論ニ導キ得ヘク、斯クテハ營業目的ヲ限リタル法律ノ規定ヲ一片ノ空文ニ歸セシムルモノト謂フノ外ナシ

四 業務規程ニ定ムル各事項ノ内容ハ一般ノ商事會社ナラハ格別日發ハ「政府ノ管理ニ屬スル發電及送電ヲ行フコトヲ目的トスル」會社ナルカ故ニ特ニ主務官廳ノ職權關與ヲ嚴ニシタルモノニシテ之カ善惡ハ別トシ苟クモ明文上會社本然ノ日常行事ニ在リテモ電氣廳ノ干涉ヲ認メタルモノナルコト日發自身カ其ノ申請書ニ援用セル第十二條各號ノ規定ニ徴シテ瞭カナリ殊ニ其ノ第三號ハ「多額ノ投資」又ハ「長期措入」ノミヲ制限シ少額又ハ短期ハ之ヲ日發ノ自由ニ委セリ之ヲ以テモ日發本來ノ營業範圍ニ於ケル投資又ハ措入ヲ意味スルモノニシテ許サレタル營業目的ノ外ニ逸脱シテ投資又ハ借入ヲ爲スコトヲ認ムルノ注意ニ非サルコトヲ知ルニ足ルヘシ、更ニ之ヲ換言セハ其ノ營業目的ノ範圍ニ於ケル日常事務ニ在リテモ尙且電氣廳長官ノ認可ニ俟ツヘキモノナルヲ以テ主務大臣ノ命令又ハ認可ナキ附帶業務ノ爲ニスル投資ノ如キハ元來許サルヘキモノニ非スシテ復タ固ヨリ電氣廳長官ノ權限ニ屬セサル所ノモノタルハ一點ノ疑ヲ容レズ

五 以上ハ本件投資カ直接ニ電力管理法規ノ明文ニ牴觸スルノ點ヲ擧ケタルモノナルカ更ニ投資ノ實體ニ入りテ其ノ當否ヲ検討センニ、別紙書面ノ甲乙孰レモ鑛業權ヲ有スル鑛區ノ外試

掘出願中ノ地點へ書面ニハ之ヲモ鑛區ト記シアルモ鑛區ト謂フノ語ハ鑛業法上一定ノ意義アリテ試掘出願地ハ之ヲ鑛區ト稱スルコトヲ得スヲモ興業ノ買收物件中ニ加ヘテ巨額ナル代價ノ中ニ包含セシメアリ甲ニ在リテハ十六鑛區ノ外試掘出願中ノモノ六十五地點ノ多キヲ示シ乙ニ在リテハ五十二鑛區ノ外試掘出願中ノ地點五箇所ヲ算ス

六 然ル處、鑛業法ハ鑛業權トシテ試掘權及探掘權ヲ認メテ之ヲ物權トシ其ノ讓渡ヲ許セルモ別紙書面ニ謂ヘルカ如キ試掘出願權ナルモノヲ認ムルコトナク從テ其ノ權利讓渡ノ事ヲ規定セズ唯タ出願人名義ノ變更ヲ許スノミ(鑛業法第四條第九條第十七條及第二十二條)サレハ試掘出願中ノ地點ヲ鑛業權ノ存スル鑛區ト同視スルハ頗ル危險ナリ既ニ試掘ヲ許サレタル鑛區ニ在テハ次テ探掘ヲ許サルヘキ確實性ヲ有スルヲ以テ之ヲ財產權トスルニ於テ疑フ所ナシト雖モ試掘出願地點ニ至リテハ則チ然ラス或ハ民法學上之ヲ期待權ト稱シ一種ノ財產權ト視其ハ出願人名義ノ變更ヲ權利讓渡ト解スル場合モナキニ非サレトモ總ニ試掘出願中ニ過キサルモノハ概シテ確實性ニ乏シク且鑛業法第三十二條ニ依リ「公益ヲ害スルモノ」又ハ「鑛業ノ價値ナシ」トシテ許可セラレサルヘキ危險性ヲ多分ニ包含ス然ルニ日發カ別紙甲乙ヲ通シテ一千百二十五萬圓ノ巨額ヲ投資シタル中ニ鑛業權ノ存スル鑛區六十八ニ對シ試掘出願中ノ地點ハ七十箇所ヲ含メリ此ノ實體ヲ日發ノ首腦者及電氣廳要路カ如何ニ評價セシヤハ本員等ノ聞

知セサル所ナレトモ十四年度下半年ノ計算ニ缺損ヲ生シテ政府ノ補給ニ須タサルヲ得サル狀況ノ殆ト豫知シ得ヘカリシ時ニ於テ斯カル不確實ノ巨額投資ヲ敢テ爲シタルハ甚タ不當ニシテ或ハ刑法第二百四十七條(新商法第四百八十六條)ニ該當スル背任ノ罪ヲ構成セサルナキヤヲ疑フモノナリ

右當事者ノ措置ニ對スル政府ノ所見奈何
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十五年三月二十四日松尾四郎君提出ス同月二十六日勝遞信大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

日本發送電株式會社ハ日本發送電株式會社法第一條第一項ノ規定ニ依リ政府ノ管理ニ屬スル發電及送電ヲ行フコトヲ目的トスル會社ニシテ、同條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可又ハ命令ヲ受ケテ附帶業務ヲ兼營シ得ルノ外、存立目的ニ關係ヲ有スル事業ニ對シ投資ヲ爲シ得ベキモノトス、本件日本發送電株式會社ノ發送電興業株式會社ニ對スル投資目的ハ、發送電事業ニ直接關係ヲ有スル炭鑛買收ノ爲ニスル資金ノ貸付ニシテ、之ガ認可申請手續及之ニ對スル電氣廳長官ノ處分ハ共ニ適法且妥當ナリト認ム、尙買收ノ目的中ニハ石炭ノ試掘權及探掘權ノ外相當ノ試掘出願中ノ地點ヲ含ムコト質問主意書ノ通ナルモ、出願人ノ名義變更ヲ爲スコトヲ得ルコトニ依リ所謂出願權ハ通常賣買ノ目的トナリ一種ノ財產權ト認メラレ居ルコト疑ノ餘地ナシ、故ニ發送電興業株式會社ニ於テ所謂出願權ヲ買收ノ目的トナセルコトハ何等妥當ヲ缺クコトナカルベシ、殊ニ日本發送電株式會社ノ之ガ買收資金貸付ハ、認可申請書ニ依リ明カナルガ如

ク、確實ナル利息收入ヲ伴フモノニシテ、業態ノ惡化ヲ招クモノトハ認め難キヲ以テ、本件投資ハ不當ナラザルモノト認めラル
右及答辯候也

緊急質問

一 英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉致シタル事件ニ關スル緊急質問

右ハ昭和十五年一月二十二日清瀬一郎君提出ス二月六日提出者之ヲ撤回セリ

二 國民融和ニ關スル緊急質問

右ハ昭和十五年三月十四日松本治一郎君提出ス同日議事日程ヲ變更(政府同意)シ提出者松本治一郎君ハ緊急質問ヲ爲シ吉田厚生大臣、松浦文部大臣、兒玉内務大臣、島田農林大臣及畑陸軍大臣ハ答辯ヲ爲ス

松本治一郎君ノ質問

本日ハ畏クモ 明治大帝ガ萬古不易ノ國是タル五箇條ノ御誓文ヲ渙發アラセラレタル記念日デアリマス、此ノ記念スベキ日ニ當リマシテ、國民融和ノ問題ニ關シテ質問ノ機會ヲ得マシタコトヲ、私衷心ヨリ感謝致ス者デアリマス、融和問題ニ付キマシテ、先ヅ第一ニ考ヘナケレバナラヌコトハ、今次支那事變トノ關聯デアリマス、即チ我國ハ今ヤ肇國ノ大精神タル八紘一字ノ理想ニ基キマシテ、東亞新秩序建設テフ有史以來ノ大事業達成ノ爲、全力ヲ擧ゲテ邁進致シテ居ルノデアリマス、申スマデモナク東亞新秩序ノ眞意義ハ、八紘一字ノ大理想ヲ顯現スル、具體的ナル實踐行動デアリマシテ、天下一家、四海同胞ノ大精神ヲ以テ東亞ヲ建直スコトデアリ、歐米列強ノ植民地ナラザル新東亞ヲ建設スルコトデアリマス、而シテ是ガ指導ノ役ハ、申スマデモナク我國ノ責任デアリ、其ノ指導精神ト云フモノハ、斷ジテ功利主義デアツテハナリマセヌ、何處マデモ誠意ヲ以テ、總テノ者ニ處テ得セシメ、總テノ者ノ生命ヲ伸バサシメル所ノモノデナクテハナラナイノデアリマス、萬一ニモ民族ノ異ルガ故ニ、誤レル優越感ヲ以テ之ニ臨ムト云フコトガアリマスナラバ、最モ排スベキコトデアリマス、然ルニ私ノ見聞スル所ニ依リマスルト、往々ニ致シマシテ我が國民ノ中ニハ、未ダ島國根性ニ囚ハレマシテ、支那人ヲ恰モ劣等民族視スル風習ガ存スルノデアリマス、現ニ昨年ノ四月九日、都下ノ各新聞ハ天津市長ノ談ト致シマシテ、「支那カラ歐米ニ留學シタ者ハ、皆ソレレニ留學國ノ親善家トナツテ歸ツテ來ルガ、日本カラ歸ツタ者ハ逆ニ排日家トナツテシマフ」ト、斯様ニ報ジテ居ルノデアリマス、私ハ昨年ノ十一月衆議院代表皇軍慰問團ニ參加致シマシテ、北支方面ニ參ツタノデアリマス、其ノ折機會アル毎ニ私ハ支那人達ニ、日支ハ同種同文ノ民族デハナイカ、日支親善コソガ眞ノ東洋平和ノ最大條件デハナイカト申シマスルト、其ノ人達ハ口ヲ揃ヘマシテ、ソレハ能ク分ツテ居リマス、併シ日本ノ一部ノ人達ハ吾々ヲ蔑視致シマス、ドウカ中國人ヲ人並ミ扱ヒラシテ欲シイト申スノデアリマシタ、此ノ一語コソハ肅トシテ底知レヌ反省ニ我が國民ヲ導クモノガアリマス、誤レル優越感ヲ以テ橫暴ヲ通シマスレバ、嫌々ナガラモ屈從シナケレバナ

リマセヌ、一方ニ横暴ガアレバ他方ニ屈從ガアル、横暴ト屈從ノアル所ニ眞ノ協和親善ハアリ得マセヌ、即チ東亞新秩序ノ建設ノ基調トナルベキモノハ、道義的民族協和デアリマス、先ヅ東亞諸民族ノ心ヲ把握セズシテ、事變ノ處理ハ到底出來ルモノデアリマセヌ、然ルニ一タビ翻ツテ國內ヲ顧ミマス時、斯ウシタ民族協和ノ中樞トナリ、指導的地位ニ立ツベキ我が國民ノ間ニ、今尙ホ一部國民ニ對スル謂ハレナキ賤視差別ノ陋習ガ、儼然トシテ存在スルデアリマス、明治大帝ノ大御心ニ依リマシテ、明治四年八月二十八日、太政官布告第六十一號、所謂解放令ガ發布サレテヨリ茲ニ七十年、今日此ノ議場ニ於キマシテ、此ノ問題ニ關スル論議ヲシナケレバナラナイコトヲ、私ハ國家ノ爲ニ悲シマザルヲ得ナイデアリマス、諸君、戰地ニ於ケル皇軍將兵ガ生命ヲ鴻毛ノ輕キニ比シ、有ユル言語ニ絶スル困苦缺乏ト戰ヒ、一身一家ヲ皇國ニ捧ケテ居ルコトハ、銃後ノ吾々ガ如何ナル言葉ヲ以テ致シマシテモ、到底盡スコトハ出來ナイデアリマス、而モ其ノ忠誠ト熱情ハ、總テノ將兵ニ共通シ、一兵タリトモ例外ノナイコトハ國民ノ齊シク確信スル所デアリマス、天皇陛下萬歲ヲ奉唱シツツ、敵彈ニ息絶エテ行ク皇軍將兵ノ前ニハ、鬼神モ哭キ、其ノ嚴肅壯絶ナル感激ヲ現ハス言葉モナイデアリマス、然ルニ支那事變發生以來、全國各地ニ於テ、或ハ護國ノ英靈ニ對シ、或ハ軍人葬、慰靈祭ヲ繞リ、又ハ出征軍人ニ對スル侮辱問題ガアリ、更ニ砲彈雨ノ下、明日ノ生命ヲモ期シ難キ戰場ニ於テスラ、數ヘ切レナイ差別事件ガ、頻々トシテ惹起サレテ居ルデアリマス、砲彈ヲ恐レズ、鬼神ヲ挫グ勇士達モ、此ノ差別迫害ノ前ニハ、血涙ヲ揮ツテ哭イテ居ルデアリマス、如何ニ差別ハ受ケマシテモ、勿論誠忠ノ念ニハ變リハアリマス、侮辱ヲ受ケタ兵士ハ、一體ドンナ氣持ガ致スデアリマセウカ、或ハイタイケナイ童心ヲ傷ケル小學校内ノ差別事件、或ハ工場鑛山等ノ職場ニ於ケル差別問題、延イテハ就職、住居、結婚ノ自由サヘモ奪ハレテ居ルデアリマス、私ハ斯ウシタ幾多ノ生々シイ事實ヲ知ツテ居リマス、ソレヲ耳ニスル毎ニ、私ノ血ハ逆流スルデアリマス、全國數百萬ノ被差別部落大衆ハ、悲憤ノ涙ニ咽ンデ居ルデアリマス、而モ是等ノ人達ハ、斯ノ如キ差別迫害ノ嵐ノ中ニモ、尙且ツ前線

ニ於テハ拔群ノ勳功ヲ立テ、銃後ニ於テモ亦一般ニ率先致シマシテ、模範的ナ獻身ノ活動ヲ續ケテ居ルデアリマス、差別ノ苦ミハ差別ヲ受ケル者ノミガ知ル苦ミデアリマス、タツタ一言、何氣ナシニ使ハレタ其ノ一言ガ、如何ナル惡罵ニモ、拷問ニモ勝ル苦痛デアリ、迫害デアリデアリマス、今ヤ我國ハ千古未曾有ノ時局ニ直面シテ居リマス、今日程切實ニ舉國一致、總親和ノ必要ナ時ハナイデアリマス、此ノ差別觀念ガ、如何ニ數百萬ノ被差別部落大衆ヲ壓迫シ、之ヲ排斥シ、我國ノ戰時體制ヲ攪亂スル非國民的ナモノデアアルカハ、想像ニ餘リアルモノデアリマス、而シテ被差別部落ヲ侮辱スル觀念ハ、直チニ又支那人々、朝鮮ノ人々ヲ侮辱シ、壓制スル心デアリマス、斯ル差別觀念コソハ、八紘一字ノ肇國精神ニ悖リ、一君萬民ノ國是ヲ攪亂スル、反國體的存在デアアルコトヲ銘記セネバナリマセヌ、斯ウシタ國內ノ融和問題ヲ解決セズシテ、ドウシテ民族協和ガ望マレマセウカ、民族協和ナクシテ、何處ニ眞ノ東亞新秩序ガ得ラレマセウ、私ハ是ニ於テ國內融和問題ノ解決コソガ、何ヨリ東亞新秩序建設ヘノ先決問題ナリト絶叫セザルヲ得ナイデアリマス、而シテ、彼ノ徳川幕府ノ壓政下ニ於テ、階級政策ノ犠牲トサレテ來マシタ、歴史的、社會的ナ結果ト致シマシテ、將又、明治維新以後ノ保護政策缺如ノ爲、被差別部落ノ現狀ガ社會、經濟、文化ノ上ニ、極メテ不遇ナル地位ニ落サレテ居ルト云フコトガ、今日差別觀念存在ノ社會的要因ニナツテ居ルコトハ、否ムコトノ出來ナイ事實デアアルデアリマス、隨テ眞ニ此ノ問題ノ解決ヲ圖ル爲ニハ、被差別部落大衆ノ自奮自勵ハ固ヨリ、一般世人ノ因ハレタル陋習ノ蒙ヲ啓クト共ニ、各般ニ互ル地區更生施設ヲ、一層擴充徹底セシムルコトガ緊要デアリマス、而シテ今日マデ此ノ問題ガ唯單ニ所謂被差別部落ノミノ問題トシテ見ラレテ來タコトハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘマセヌ、即チ此ノ問題ハ被差別者ヤ一部ノ關係者ノミノ問題デアリマセヌ、眞ニ國民協力、官民一致ノ下ニ、全國民の運動トシテ進メラルベキモノデアリマス、更ニ又施政上ノコトヲ申上ゲマスト、本問題ノ關係バ行政各般ニ互ツテ居ルデアリマシテ、獨リ主務省ノ善處ノミデハ、到底所期ノ目的ヲ達スルコトハ困難デアリマス、隨テ關係各省ノ機能ヲ關聯的ニ存分發揮スルコトニ依ツテ、完全ナル解決ヲ見ルコトガ

出來ルト信ズルノデアリマス、私ハ此際反國體のナ存在デアリ、東亞新秩序建設途上ノ一大障礙デアアル本問題ノ完全解決ヲ促進シ、一億一心、國民一體ノ實ヲ舉グル爲ニ、國民各階層ノ積極的協力ヲ切ニ要望ス次第デアリマス、而シテ私ハ本問題ノ解決ノ爲ニハ、私ノ全生命ノ限リヲ盡シテ、最後ノ血ノ一滴マデ働クコトヲ覺悟致シテ居ル者デアリマス、以上ノ觀點ニ立チマシテ、私ハ次ノ諸項ニ關スル政府ノ御所信ヲ御尋致シマス、第一ニ、國體ノ本義、竝ニ時局ノ重大性ニ鑑ミ、融和問題ニ對スル政府ノ所見如何、次ニ、關係各省ヲ網羅シ、之ニ民間ノ有志ヲモ加ヘ、權威アル融和事業調査審議機關ヲ設置スル意思アリヤ、是ハ總理大臣ニ御答辯ヲ願フテ居リマシタガ、總理大臣ノ方ニ於キマシテ御都合ガ惡イサウデアリマスカラ、厚生大臣ヨリ代ツテ御答辯ヲ御願スル次第デアリマス、其ノ次ハ、國民教育中其ノ内容トシテ融和教育ヲ取上グル意思アリヤ、一般社會教化事業ノ對象トシテ、融和問題ヲ取扱フ意思アリヤ、是ハ文部大臣ニ御願シマス、其ノ次ハ、國民融和進展ニ資スル檢閱方針樹立ノ意思アリヤ、警察行政上、國民融和ニ關スル積極的協力ノ意圖如何、是ハ内務省關係ノ人ニ御答辯ヲ願ヒマス、其ノ次ハ、農村經濟更生及ビ分村計畫中ニ含マレル關係地區ニ對シ、特ニ方策ヲ考慮スル意思アリヤ、農林大臣ニ御答辯ヲ願ヒマス、軍隊内ニ於ケル差別事象ニ鑑ミ、具體的融和方策如何、是ハ陸海軍兩大臣ニ御答辯ヲ願ヒマス、中央地方ノ融和事業機關ヲ國民組織トシテ、積極的ニ擴充強化スル意思アリヤ、國民融和促進上、一般行政トノ關聯ニ關スル抱負如何、融和完成ノ主要方策タル地區更生施設ヲ、一層擴充徹底スルノ意思アリヤ、是ハ厚生大臣ニ重ネテ御答辯ヲ願フノデアリマス、私ノ質問ハ之ヲ以テ終リマス

吉田厚生大臣ノ答辯

松本君ノ御質問中、私ニ對スル部分ニ付キマシテ御答ヲ致シマス、御質問中ニ述ベラレマシタ如ク、今日尙ホ國民ノ間ニ差別ノ陋習ノ斷チ難イモノノアリマスコトハ、洵ニ遺憾デアリ、且ツ時局柄深憂ニ堪ヘヌコトト考ヘマス、尤モ近來漸ク差別ノ陋習ノ不合理ナル所以ガ、世ノ中

ニ明ニセラレマシテ、改善ノ跡モ著々舉ツテハ居ルノデアリマスガ、尙ホ今日ノ重大時局ニ鑑ミマシテ、一層其ノ差別打破ト云フコトノ徹底ヲ圖ラネバナライコトハ、固ヨリデアルト思フノデアリマス、洵ニ此ノ重大時局ノ解決ノ鍵鑰ト致シマシテモ、先ヅ第一ニ國內ノ忌ムベキ差別ト云フヤウナコトガ、徹底的ニ清算セラレマスコトハ、最モ肝要デアルト思フノデアリマス、左様ナ趣意ニ鑑ミマシテ、第一ニ此ノ問題ハ、行政各般ニ互ル其ノ連絡、關聯ノ働キヲ以テ解決スル爲ニ、各階級ノ協力ガ必要デアリ、隨テ權威アル中央的ナ調査機關ヲ設クルノ要ハナイカト云フ御趣意デゴザイマス、融和ノ問題ノ根本義ニ付キマシテハ、既ニ何等調査ノ必要ノナイ程明カデアルト思フノデアリマスガ、此ノ根本義實踐ノ上ニ現ハシマスルニ付キマシテハ、松本君ノ述ベラレマスルガ如クニ、種々工夫調査ヲセネバナラスコトモアルト考ヘマスルノデ、能ク御趣意ニ鑑ミマシテ、此ノ調査機關ヲ設クベキヤ、又如何ナル調査ヲ行フベキカト云フコトニ付キマシテハ、研究善處致シタイト考ヘマス、次ニ中央地方ノ融和事業機關ヲ國民組織トシテ、積極的ニ擴充強化スル意圖ガアルカト云フ御尋デゴザイマス、御承知ノ通りニ融和ヲ目的ト致シマスル各種ノ團體ガゴザイマスルノデ、是等ハ今日ト雖モ中央融和事業協會ノ下ニ、可ナリナ程度マデノ連絡協調ノ實ヲ舉ゲテ居ルノデアリマスルガ、融和問題解決ノ爲ニ、更ニソレヲ強化スルニ、如何シタナラバ宜シイカト云フコトニ付キマシテモ、前項ノ御質問同様ノ趣意ニ依リマシテ、政府ニ於キマシテハ十分ナ研究ヲ遂ゲ、工夫ヲ致シテ見タイト存ジマス、次ニハ融和ノ促進上一般行政トノ關聯ニ關シテ、厚生大臣トシテ抱負ハドウカト云フ御尋デアリマス、松本君ノ御質問中ニ述ベラレマシタ如クニ、此ノ問題ヲ解決致シマスニハ、單ニ厚生省所管ノ一部局ノ働キノミニ俟ツテ、能ク成シ得ベキデハナイコト固ヨリデアリマス、關係各方面官廳ハ固ヨリコト、官民各方面廣ク連絡ヲ取リマシテ、此ノ問題ノ徹底的解決ト云フコトニ、十分ノ力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、次ニ融和ノ完成上其ノ主要方策デアアル部落ノ更生施設ヲ、一層擴充強化スル意思ハナイカト云フ御尋デゴザイマス、今日マデモ御承知ノ通りニ融和事業完成ノ爲ニ、部落更生ニ關シマシテ若干ノ經費ヲ支出シ、種々經營ヲ致シテ居リマ

スル次第アリマスルケレドモ、此ノ現状ヲ以テシテ、政府ト致シマシテハ満足致シテ居ル次第
デハゴザイマセヌノデ、財政ノ限度ノ許シマスル限り、更ニ一層ノ強化擴充ニ盡力致シタイト
思ヒマス、以上ヲ以テ私ニ對シテノ御尋ニ對スル御答ト致シマス

松浦文部大臣ノ答辯

松本君ノ御尋中私ニ關スル部分ニ付テ御答ヲ申上ゲマス、國民融和ニ關シマシテハ、曩ニ重大
ナル時局ニ鑑ミマシテ、昭和十三年八月、特ニ融和教育ノ徹底ニ關スル訓令ヲ發シタヤウナ次
第デアリマス、之ニ依ツテ此ノ教育ノ普及ニ努メテ居ルノデアリマスルガ、國民一體、同胞融
和ノ實ヲ擧ゲマシテ、差別的觀念ヲ根絶致スト云フコトニ付キマシテハ、教育教化ヲ通ジテ、
一般國民ノ正シキ認識ヲ深メルコトガ緊要ト存ジマスルノデ、此ノ點ニ鑑ミマシテ、教育教化
ノ職ニ在ル者ニ對シマシテ、正シキ理解ヲ得セシメ、指導ニ當ラシメル爲ニ、國民教育、社會
教育ヲ通ジマシテ、十分ノ努力ヲ致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ今後ニ於キマシテモ、此ノ
點ニ付キマシテハ一層ノ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマスヤウナ次第デアリマス

兒玉内務大臣ノ答辯

今日ノ時局下ニ於キマシテ、今尙ホ融和問題ガ論議セラルルコトハ、洵ニ遺憾ノ極ミデアリマ
シテ、此ノ點ニ於キマシテ、松本君ニ深キ同情ヲ表スル者デアリマス、新聞紙、出版物ノ檢閲
ニ付キマシテハ、是等ニ現ハレマシタ一切ノ差別的ノ字句ハ、之ヲ嚴重ニ取締ツテ居ルノデア
リマス、今後ニ於キマシテモ同一ノ方針ヲ以テマシテ、指導取締ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデ
アリマス、尙ホ警察當局ニ於キマシテハ、平素各種ノ機會ニ於キマシテ、此ノ誤ツタル觀念ヲ
捨テテ、正シキ理解ヲ得サシムルベク、全力ヲ盡シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシ
テ將來モ一層關係方面ト協調ヲ致シマシテ、國民融和ノ實ヲ擧ゲルコトニ、一層ノ力ヲ致シタ
イト思フノデアリマス

島田農林大臣ノ答辯

國民融和ノ問題ニ付テ、只今質問演說中ニ、松本君ノ前提トシテ述ベラレマシタ御意見ニ對シ
マシテハ、全然同感デアリマス、而シテ農村ノ經濟更生及ビ分村計畫ノ場合ニ、之ニ含まレテ
居ル關係地區ノ點ニ關シテ、特ニ考慮ヲスルノ意思ガアルカト云フコトデアリマシタガ、是等
ノ問題ニ付キマシテハ、是マデモ斯様ナ事柄ニ付キマシテ、十分注意ヲ致シテ居ルノデアリマ
スガ、尙ホ今後此ノ時局ノ關係等カラ考ヘマシテ、一層注意ヲ加ヘマシテ、此ノ問題ニ關シテ
努力ヲ致シタイト考ヘル次第デアリマス、是ダケヲ申上ゲマス

畑陸軍大臣ノ答辯

御答致シマス、皇軍將兵ハ上下一體 陛下ノ股肱トシテ軍務ニ精勵シツツアリマシテ、今日尙
ホ軍隊ニ於テ御質問ノヤウナ融和ニ關スル云々ト云フ問題ノ如キハ、軍當局トシテハ夢想ダニ
致サナイ所デアリマス、若シ御指摘ノヤウナコトガアツタト致シマスナラバ、是ハ御聖諭ニ副
ハザルモノデアリマスルカラ、十分訓諭ヲ加ヘマシテ、是ガ絶滅ヲ期シタイト存ジテ居リマス

第四章 副議長候補者、全院委員長、常任委員及特別委員ノ選舉

昭和十四年十二月二十三日本期議會召集當日副議長關位ナリシヲ以テ副議長候補者ノ選舉ヲ行ヒ其ノ結果(投票總數三百八十) 田子一民君(三百六十點)、加藤知正君(二百五十點)、本田義成君(二百二十點)當選セリ依テ議長ハ即日內閣總理大臣ヲ經由シテ候補者ヲ奏上シタルニ同日田子一民君ハ衆議院副議長ニ勅任セラレタリ

翌二十四日議長ハ副議長田子一民君ヲ議場ニ紹介ス

副議長田子一民君ハ左ノ就職ノ辭ヲ述フ

諸君、時局重大ノ秋圖ラズモ諸君ノ御推薦ヲ辱ナク致シ、衆議院副議長ノ榮職ヲ汚スニ至リマシタコトハ、私ノ最モ光榮トスル所デアリマス、又深く感謝スル所デゴザイマス、唯不徳不敏及バザルコトヲ惧ルルノデアリマス、幸ニ諸君ノ御鞭撻御援助ニ依リ誠心誠意事ニ當リ、此ノ重職ヲ完ウ致シタイト存ジマス、茲ニ謹ンデ一言御挨拶ヲ申上ゲマス

年長議員熊谷五右衛門君ハ議員總代トシテ副議長ニ對シ左ノ祝辭ヲ述フ

諸君、私ハ年長者タルノ故ヲ以テマシテ、議員一同ヲ代表シテ副議長ニ對シ祝辭ヲ申上ゲマス、田子君ハ本院多數ノ推薦ニ依リ副議長ニ勅任セラレマシタコトハ、私共一同ノ満足シテ喜ビニ堪ヘナイ所デアリマス、田子君ハ多年憲政ノ爲盡瘁セラレタル老練達識ノ方デアリマス

カラ、其ノ職責ヲ全ウシ、一層憲政ノ發達ニ貢獻セラルベキハ信ジテ疑ハザル所デアリマス、茲ニ謹ンデ議員一同ヲ代表シテ祝辭ヲ申上ゲマス

右終ルヤ金光庸夫君ハ發言ヲ求メ左ノ如ク副議長在職中ノ挨拶ヲ述フ

不肖去ル八月三十日ヲ以テ拓務大臣ヲ拜命致シマシタニ付キマシテ、同日本院副議長辭任ヲ願出デ、翌三十一日御裁可ヲ蒙リマシタ、顧ミマスレバ昭和十二年七月二十三日、諸君ノ御推薦ニ依リ副議長ニ就任致シマシテ以來、特別、臨時ノ兩議會及ビ二回ノ通常議會中孰レモ非常事變下ノ議會ニ於キマシテ、大過ナク職責ヲ盡スヲ得マシタコトハ、偏ニ諸君ノ御庇護御援助ニ依ル次第デアリマシテ、深く感謝ニ堪ヘナイ所デアリマス、尙ホ今後ト雖モ依然議席ノ末班ヲ汚シテ居ルノデゴザイマスカラ、一層ノ御同情ト御指導トヲ希ウテ已マナイ次第デアリマス、茲ニ滿腔ノ誠意ヲ以テ謹ンデ御挨拶申上ゲマス

年長議員熊谷五右衛門君ハ議員總代トシテ前副議長ニ對シ左ノ謝辭ヲ述フ

諸君、私ハ年長者タル故ヲ以テマシテ議員一同ヲ代表シテ謹ンデ前副議長金光庸夫君ニ御挨拶ヲ申述ベマス、君ガ去ル八月内閣ノ更迭ニ際シマシテ拓務大臣ノ顯職ヲ拜任セラレマシタル御光榮ハ、吾々一同ノ深く祝賀スル所デゴザイマス、隨テ御入閣ノ結果本院副議長ヲ辭セラレマシタルニ付キ、只今御鄭重ナル御挨拶ニ與リマシテ恐縮ノ至リニ存ジマス、君ガ御在職中ハ熱誠ト老練トヲ以テ公明克ク其ノ職責ヲ盡サレマシタノハ、吾々一同ノ深く感謝ニ堪ヘザル所デアリマス、冀クハ現下内外未曾有ノ時局ニ際シ國家ノ爲益、御奮勵アラント切望致シマス

同月二十七日全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ百瀬渡君ハ三百二十八點ノ得票(投票總數三百三十八)ヲ以テ當

選セリ

常任委員(豫算、決算、請願又懲罰ノ各委員並建議案審査ノ部ニ一七)ノ選舉ハ全院委員長選舉ノ後本會議休憩中各部ニ於テ之ヲ行ヒ再開シテ其ノ結果ヲ報告シ、委員長理事ノ互選ハ本會議散會後直ニ之ヲ行ヒタリ而シテ豫算委員會ハ昭和十五年二月十五日八分科ヲ、決算委員會ハ三月十四日四分科ヲ、請願委員會ハ二月五日四分科ヲ、建議委員會ハ二月十三日二分科ヲ設定シテ各委員ノ所屬ヲ定メタリ其ノ員數左ノ如シ但シ委員長ハ分科ニ屬セス

豫算委員

- 第一分科 (外務省及拓務省所管) (所屬員 十九名)
- 第二分科 (内務省及司法省所管) (所屬員 十一名)
- 第三分科 (大藏省所管) (所屬員 十三名)
- 第四分科 (陸軍省及海軍省所管) (所屬員 十二名)
- 第五分科 (文部省及厚生省所管) (所屬員 十三名)
- 第六分科 (農林省所管) (所屬員 十八名)
- 第七分科 (商工省所管) (所屬員 二十五名)
- 第八分科 (遞信省及鐵道省所管) (所屬員 十六名)

決算委員

- 第一分科 (大藏省所管) (所屬員 三十三名)
- 第二分科 (外務省、内務省、司法省、文部省及厚生省所管) (所屬員 三十三名)
- 第三分科 (陸軍省、海軍省、農林省及商工省所管) (所屬員 三十三名)
- 第四分科 (遞信省、鐵道省及拓務省所管) (所屬員 三十三名)

請願委員

- 第一分科 (内閣、大藏省及他ノ分科ニ屬セサル事項) (所屬員 二十四名)
- 第二分科 (外務省、内務省、司法省、文部省及厚生省所管) (所屬員 二十四名)
- 第三分科 (陸軍省、海軍省、農林省及商工省所管) (所屬員 二十四名)
- 第四分科 (遞信省、鐵道省及拓務省所管) (所屬員 二十四名)

建議委員

- 第一分科 (内閣、陸軍省、海軍省、司法省、遞信省、鐵道省及拓務省所管) (所屬員 十三名)
- 第二分科 (外務省、内務省、大藏省、文部省、農林省、商工省及厚生省所管) (所屬員 十三名)

第四章 副議長候補者、全院委員長、常任委員及特別委員ノ選舉

特別委員ノ設定二十ニシテ執レモ院議ニ依リ議長指名ヲ以テ之ヲ選定セリ而シテ其ノ員數四十五名ノモノ一、三十六名ノモノ一、二十七名ノモノ五、十八名ノモノ十二、九名ノモノ一トス

委員中辭任シタルモノ常任委員ニ在リテハ百十名、特別委員ニ在リテハ百四十二名ニシテ其ノ補闕ハ常任委員ニ於テハ其ノ選出部ニ於テ之ヲ選舉シ特別委員ニ於テハ議長指名ニ依リ之ヲ選定セリ

全院委員會ハ之ヲ開キタルコトナク常任委員會ノ開會數ハ豫算委員會五十九回、決算委員會二十二回、請願委員會二十四回、懲罰委員會十三回、建議委員會十三回(執レモ分科會ヲ含ム)ニシテ特別委員會ノ開會數二百十一回トス此ノ外部會ヲ開キタルコト百三回ニ及ヘリ

附 錄

衆議院議事摘要 附錄

第一議員

本期議會ニ於ケル議員ノ氏名ヲ議席、部屬、選舉區及所屬黨派ト共ニ表記スレハ左ノ如シ

議員氏名 (五十音順)

(會期終了當日現在(關員二十一名))

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四六四	八	熊本	一時	安達謙藏君	二三五	九	滋賀	民	青木亮貫君
一九九	九	山口	第一	安倍實君	四四九	六	石川	二政	青山憲三君
八九	一	東京	二無	安部磯雄君	四四三	八	北海道	四時	赤松克麿君
一四	三	愛知	二第二	安藤孝三君	四〇	九	德島	二第一	秋田清君
三九六	一	東京	三政	安藤正純君	三六二	六	高知	一政	淺井茂猪君
七五	六	東京	四社	阿部茂夫君	七三	一	東京	三社	淺沼稻次郎君
二一五	九	佐賀	二民	愛野時一郎君	九二	一	東京	五社	麻生久君
四三二	三	山口	一時	青木作雄君	四〇七	六	京都	三政	芦田均君
一九五	五	群馬	一政	青木精一君	四一八	二	大分	二政	綾部健太郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
九三	五	大阪六	政	井阪豐光君
一九六	六	鹿兒島一	政	井上知治君
六二	四	大阪二	社	井上良次君
四四九	六	熊本二	時	伊豆富人君
三七一	三	宮崎	政	伊東岩男君
二九五	六	山形二	民	伊藤五郎君
二八二	七	岐阜二	民	伊藤東一郎君
四六三	七	沖繩	時	伊禮肇君
三九八	三	福井	政	猪野毛利榮君
一三六	七	神奈川一	民	飯田助夫君
四	九	茨城三	第一	飯村五郎君
四一〇	五	德島一	政	生田和平君
四四五	二	大阪三	時	池崎忠孝君
一四七	二	福井	政	池田七郎兵衛君
三〇二	二	千葉三	民	池田清秋君
三二六	二	佐賀一	民	池田秀雄君
一三七	二	京都二	民	池本甚四郎君
一四八	三	福岡二	政	石井徳久次君
四五七	七	熊本一	時	石坂繁君
四一一	七	富山一	政	石坂豊一君
一一三	一	埼玉二	政	石坂養平君
四一七	四	大阪一	政	板野友造君
四一四	九	北海道一	政	板谷順助君
一四五	三	佐賀二	政	一ノ瀬俊民君
二四六	二	大分一	民	一宮房治郎君
一三九	九	岩手二	政	泉國三郎君
一一二	五	埼玉三	政	出井兵吉君
七七	五	鳥取	政	稻田直道君
四二一	二	岡山二	政	犬養健君
四五一	五	山梨	時	今井新造君
八八	一	千葉二	政	今井健彦君
二二八	三	新潟三	民	今成留之助君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四二九	七	千葉三	政	岩瀬亮君
一一八	一	鹿兒島二	政	岩元榮次郎君
二〇七	五	千葉二	民	宇賀四郎君
二二九	五	富山二	民	卯尾田毅太郎君
九四	八	大阪三	政	上田孝吉君
三八八	二	長野四	政	植原悦二郎君
三二〇	六	宮城一	民	内ヶ崎作三郎君
三九	二	茨城一	第一	内田信也君
五四	六	三重一	政	馬岡次郎君
四四八	八	奈良	時	江藤源九郎君
八〇	八	栃木一	政	江原三郎君
一九四	二	愛知四	政	小笠原三九郎君
七一	二	青森二	政	小笠原八十美君
三二二	四	岡山二	民	小川郷太郎君
三六六	五	神奈川二	政	小串清一君
一一九	五	千葉三	政	小高長三郎君
四三一	七	青森二	時	小野謙一君
一一九	一	大分一	政	小野野廉君
一八九	四	愛媛二	民	小野寅吉君
三一〇	六	宮城二	民	小山倉之助君
一四九	七	秋田二	政	小山田義孝君
一八	四	三重二	第一	尾崎行雄君
三三一	三	熊本一	民	大藤唯男君
四三七	一	高知一	時	大石大君
三九九	三	宮城二	政	大石倫治君
一三三	一	茨城二	政	大内竹之助君
四〇四	九	愛知五	政	大日喜六君
一二五	五	北海道三	民	大島寅吉君
二〇六	二	愛知四	民	大野一造君
三九七	二	岐阜一	政	大野伴陸君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七一	四	愛媛二	政	大本貞太郎君
四二五	四	靜岡三	政	太田正孝君
一四〇	七	長崎一	政	太田理一君
一六	二	神奈川三	無	岡崎久次郎君
四六	七	神奈川一	無	岡崎憲君
二七二	五	栃木一	民	岡田喜久治君
三八七	二	岡山一	政	岡田忠彦君
二八四	八	福岡三	民	岡野龍一君
三〇四	七	愛知四	民	岡本實太郎君
一〇三	一	島根二	政	沖島鎌三君
三三七	三	東京五	無	加藤勘十君
三二五	一	愛知三	民	加藤鋼一君
一八一	五	新潟三	政	加藤知正君
四八	八	岐阜三	社	加藤鎌造君
一二三	二	愛知一	政	加藤鎌五郎君
二二八	五	新潟一	民	新瀨一吉君
二一八	五	長崎一	民	山梨重治君
二二二	八	茨城三	無	風見章君
二〇八	八	三重一	民	片岡恒一君
一九七	七	神奈川二	無	片岡哲君
三三一	一	福岡四	民	勝正憲君
三三七	三	大阪五	民	勝田永吉君
一一四	六	鹿兒島三	政	金井正夫君
五五	一	群馬一	政	金澤正雄君
四二六	四	大分一	政	金光庸夫君
八四	五	福岡二	社	龜井貫一郎君
三三三	五	三重一	民	川崎克君
三二五	九	京都二	民	川崎末五郎君
七九	三	茨城二	政	川崎巳之太郎君
一五四	四	千葉一	政	川島正次郎君
二九四	八	長崎二	民	川副隆君
三六七	八	秋田二	社	川俣清音君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四七	七	兵庫三	社	河合義一君
八一	四	兵庫一	社	河上丈太郎君
六六	七	愛媛二	政	河上哲太君
三二八	四	沖繩	民	漢那憲和君
一八六	七	福岡一	政	簡牛凡夫君
九五	八	北海道五	政	木下成太郎君
二八八	六	廣島二	民	木原七郎君
二八〇	四	栃木二	民	木村淺七君
五九	五	岐阜二	政	木村作次郎君
四三〇	二	山形一	時	木村武雄君
一一二	四	熊本一	政	木村正義君
二〇一	四	石川二	民	喜多壯一郎君
五二	五	宮城一	社	菊地養之輔君
二四九	七	青森二	民	菊池良一君
一〇九	八	廣島一	政	岸田正記君
二四	四	北海道四第二	政	北勝太郎君
二一八	五	新潟一	民	北鈴吉君
三	一	奈良三	第一	北浦圭太郎君
一五〇	四	長野三	民	北原阿智之助君
二九八	三	宮城一	民	北村文衛君
三〇三	三	岐阜一	民	清寛君
四六六	六	兵庫四	時	清瀬一郎君
一八三	五	大分二	政	清瀬規矩雄君
一五三	九	岡山一	政	久山知之君
三四三	四	青森一	民	工藤鐵男君
二八二	七	青森二	政	工藤十三雄君
二〇五	六	福島一	民	釘本衛雄君
三七四	一	山口二	政	國光五郎君
八六	一	山口二	政	窪井義道君
三八	六	福井	第一	熊谷五右衛門君
一〇五	九	山形二	政	熊谷直太郎君
一六二	四	靜岡三	政	倉元要一君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四五六	三	熊本二	時	藏原敏捷君
三六	一	岡山一	無	黒田壽男君
四四二	四	福岡四	時	小池四郎君
二八三	三	鹿兒島一	民	小泉純也君
二五六	九	神奈川二	民	小泉又次郎君
一二七	九	栃木二	政	小平重吉君
三八五	二	岡山二	政	小谷節夫君
一三一	九	兵庫四	民	小畑虎之助君
一三五	七	兵庫三	政	小林絹治君
二九〇	九	兵庫二	民	小林房之助君
三五七	四	熊本二	政	小見山七十五郎君
一七六	七	新潟二	民	小柳牧衛君
一一一	四	長野二	民	小山邦太郎君
四三	議長	愛知一	無	小山松壽君
二七一	二	和歌山二	民	小山谷藏君
四四四	四	長野二	時	小山亮君
一一七	三	群馬二	政	木暮武太夫君
二六二	二	群馬二	民	小槍三四郎君
三九一	八	神奈川三	政	河野一郎君
八二	四	東京一	社	河野密君
一五五	五	德島一	政	紅露昭君
三一九	八	東京二	民	駒井重次君
五三	三	高知二	社	佐竹晴記君
二五四	二	新潟三	民	佐藤謙之輔君
四六五	三	山形一	時	佐藤啓君
一九〇	九	茨城三	政	佐藤洋之助君
三九〇	三	長崎二	政	佐保畢雄君
一四三	八	福井	民	齋藤直橋君
二〇九	六	静岡三	民	坂下仙一郎君
三五八	六	熊本二	政	坂田道男君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二〇	八	埼玉二	第二	坂本宗太郎君
一六四	五	沖繩	政	崎山嗣朝君
二四一	三	廣島三	民	作田高太郎君
三三五	六	石川二	民	櫻井兵五郎君
二六八	九	島根一	民	櫻内幸雄君
一五八	二	北海道一	民	澤田利吉君
一九一	九	岩手二	政	志賀和多利君
二四〇	九	秋田一	民	信太儀右衛門君
四六〇	三	愛知一	時	椎尾辨匡君
三八一	四	静岡二	政	鹽川正藏君
二五八	七	大分二	民	重松重治君
一四四	七	群馬二	政	篠原義政君
二五一	二	千葉一	民	篠原陸朗君
一六九	五	島根二	政	島田俊雄君
二一九	一	山形二	民	清水徳太郎君
二四三	九	群馬一	民	清水留三郎君
三六五	六	宮城一	政	庄司一郎君
六三	一	群馬一	社	須永好君
二六〇	八	福岡四	民	末松偕一郎君
四三八	二	愛知五	時	杉浦武雄君
八三	八	大阪五	社	杉山元治郎君
一一六	七	福島二	政	助川啓四郎君
二二七	六	宮崎	民	鈴木憲太郎君
四五〇	四	愛知五	時	鈴木正吾君
三八六	五	神奈川三	政	鈴木英雄君
九九	八	東京六	無	鈴木文治君
四〇五	六	愛媛三	政	砂田重政君
三七三	九	和歌山二	政	世耕弘一君
二六	九	宮崎	第一	曾木重貴君
一三八	七	大阪五	政	曾和義式君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三一四	四	福井	民	添田敬一郎君
(多)				
一七	八	東京	三第一	田川大吉郎君
四四	四	岩手	一無	田子一民君
二八	八	福岡	二無	田尻生五君
一四六	九	北海道三	政	田代正治君
一三〇	四	長野	一民	田中邦治君
四一三	二	東京	六政	田中源君
三九七	七	京都	二政	田中好君
七	八	長野	四第一	田中耕君
三三三	七	兵庫	四民	田中武雄君
二五〇	五	大阪	五民	田中万逸君
四三五	四	滋賀	時	田中養達君
三八四	九	佐賀	一政	田中亮一君
一五二	五	山梨	政	田邊七六君
五六	一	福岡	四社	田原春次君
四二七	二	新潟	四政	武田德三郎君
三六九	九	東京	四政	瀧澤七郎君
一九二	九	富山	一政	高見之通君
三五六	一	愛媛	三政	高島龜太郎君
三〇一	八	東京	一民	高橋義次君
一四一	三	埼玉	一政	高橋泰雄君
二三九	一	埼玉	二民	高橋守平君
二四五	二	岩手	一民	高橋壽太郎君
一七八	一	山形	一政	高橋熊次郎君
一一八	五	島根	一政	高橋圓三郎君
三三二	六	栃木	一民	高田耘平君
四五八	二	新潟	二時	高岡大輔君
二四二	九	千葉	一民	多田滿長君
三〇〇	三	徳島	一民	田村秀吉君
七六	七	大阪	一社	田万清臣君
三五	八	和歌山	二無	田淵豐吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二七三	一	愛媛	一民	武知勇記君
三八二	三	兵庫	二政	立川平君
四四六	五	岡山	一政	玉野知義君
二四七	七	島根	二民	俵孫一君
(子)				
一五六	九	宮崎	政陣	軍吉君
(ツ)				
四〇〇	九	東京	七政	津雲國利君
二七六	七	静岡	三民	津倉龜作君
三三三	七	鹿兒島	一第一	津崎尙武君
三四六	一	京都	三民	津原武君
五八	八	大阪	三社	塚本重藏君
二〇二	三	愛知	一民	塚本三君
八七	一	富山	二政	塚倉宗明君
二一三	七	秋田	二民	土田莊助君
三〇七	六	千葉	三民	土屋清三郎君
二二六	一	廣島	三民	土屋實君
三三六	八	滋賀	一民	堤康次郎君
六五	二	栃木	一政	坪山徳彌君
七八	八	福岡	三政	鶴徳市君
一九九	二	岩手	二民	鶴見祐輔君
(テ)				
二五二	二	北海道	四民	手代木隆吉君
一一〇	七	鹿兒島	二政	寺田市正君
(ト)				
一〇四	二	鹿兒島	二政	東郷實君
三七六	五	北海道	五政	東條貞君
四九九	六	東京	一時	道家齊一郎君
一〇〇	八	鹿兒島	二無	富吉榮二君
一七三	一	鳥取	一政	豊田一收君
三一	七	茨城	二民	豊田豊吉君
(チ)				
四二二	六	廣島	一政	名川侃市君
一六七	四	大阪	三民	内藤正剛君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二七五	九	愛知三	民	內藤守正君	二二〇	一	沖繩	民	仲井間宗一君
四一六	六	兵庫一	政	中井一夫君	二八五	七	福島二	民	仲西三良君
一七七	七	茨城二	民	中井川浩君	三三〇	二	石川一	民	永井柳太郎君
二八九	二	秋田一	民	中川重春君	五一	二	兵庫一	社	永江一夫君
三一八	九	茨城一	民	中崎俊秀君	一七二	五	鹿兒島三	政	永田良吉君
一六〇	七	群馬一	政	中島知久平君	九	八	廣島三	第一	永山忠則君
三〇五	一	東京二	民	中島彌國次君	二二四	七	三重二	民	長井源君
三六三	八	秋田一	政	中田儀直君	二九六	六	東京二	民	長野高一君
三六〇	九	山口二	政	中野治介君	二八六	二	大分一	民	長野綱良君
四五四	五	福島二	政	中野寅吉君	二一〇	四	高知一	民	長野長廣君
三〇六	六	佐賀一	民	中野邦一君	二九二	一	千葉一	民	成島勇君
四五二	九	長野三	時	中原謹司君	二一六	六	北海道五	民	南雲正朔君
二七七	八	東京六	民	中村梅吉君	九〇	八	大阪四	無	西尾末廣君
一五九	三	京都一	民	中村三之丞君	四六二	八	長崎二	政	西岡竹次郎君
六一	九	東京七	社	中山福藏君	八五	三	山形一	政	西方利馬君
三三八	七	大阪四	民	中山福藏君					

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三七八	六	山口一	政	西川貞一君	一三	四	石川一	第二	長谷長次君
二八七	一	和歌山一	民	西田郁平君	三八〇	五	滋賀	政	服部岩吉君
二三六	四	京都一	民	西村金三郎君	二五三	二	愛知二	民	服部英明君
四一五	四	山口二	政	西村茂生君	二二一	五	愛知一	民	服部崎市君
一五七	五	神奈川一	政	野方次郎君	四〇二	九	東京二	政	鳩山一郎君
三七二	二	神奈川二	政	野口喜一君	一七五	四	兵庫一	民	濱野徹太郎君
四二〇	六	福岡三	政	野田俊作君	三八三	三	高知二	政	林謙治君
三三三	三	兵庫一	民	野田文一郎君	一五二	九	福島三	民	林平馬君
四五五	四	埼玉三	時	野中徹也君	一八五	三	兵庫四	政	原惣兵衛君
五七	五	長野三	社	野溝勝君	二二一	五	東京一	民	原玉重君
三三二	九	富山一	民	野村嘉六君	二五九	八	島根一	民	原夫次郎君
二九九	五	長崎一	民	則元卯太郎君	四〇六	五	福岡一	政	原口初太郎君
七二	二	長野二	政	羽田武嗣郎君	一〇二	一	静岡二	政	春名成章君
三二	六	長崎一	第一	馬場元治君	一六六	五	北海道三	民	坂東幸太郎君
四一九	四	石川一	政	箸本太吉君	二〇四	一	福島三	民	比佐昌平君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四六一	五	廣島二	政	肥田 琢司君	一八〇	一	栃木一	政	船田 中君
一三三	四	愛知二	政	樋口善右衛門君	二二五	七	埼玉三	民	古島 義英君
一六三	一	岐阜一	政	匹田 銳吉君	二九一	七	廣島一	民	古田喜三 太君
二〇〇	三	大阪一	民	一松 定吉君	三三八	四	岐阜三	民	古屋 慶隆君
三一六	三	神奈川三	民	平川松太郎君	(木)				
三三四	三	静岡一	民	平野 光雄君	三〇	一	東京四	第一	朴 春琴君
三三二	三	山梨	第一	平野 力三君	一一一	三	福島三	政	星 一君
(?)					三五二	七	岡山二	政	星島 二郎君
一二三	八	北海道四	民	深澤 吉平君	二四四	一	山梨	民	堀内 良平君
三八九	六	静岡一	政	深澤 豐太郎君	一六一	二	福島一	政	堀切善兵衛君
一九七	四	奈良	政	福井 甚三君	四四〇	八	長崎一	政	本田 英作君
二二四	三	京都一	民	福田 關次郎君	三二九	七	大阪四	民	本田 彌市郎君
一二六	一	山口二	民	福田 悌夫君	一〇八	六	東京一	政	本田 義成君
三五〇	五	佐賀二	政	藤生安太郎君	(マ)				
一八七	三	廣島一	民	藤田 若水君	二二七	八	德島二	民	眞鍋 勝君
二五	四	香川一	第一	藤本 捨助君	二二三	九	東京四	民	眞鍋 儀十君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二六四	六	香川一	社	前川 正一君	七〇	四	岩手二	政	松川 昌藏君
二五五	四	兵庫二	民	前田房之助君	三五四	六	新潟二	政	松 木 弘君
一六八	一	東京六	政	前田 米藏君	二三七	八	愛媛一	民	松田喜三郎君
一七〇	七	東京五	政	牧野 賤男君	一九八	五	三重一	民	松田 正一君
四〇一	五	岐阜三	政	牧野 良三君	三一七	九	大阪六	民	松田竹千代君
三四〇	六	長崎二	民	牧山 耕藏君	一四二	一	埼玉一	民	松 永 東君
二六六	六	新潟四	民	増田 義一君	四五	七	埼玉一	無	松 永 義雄君
三七七	五	福岡三	政	増 永 也君	三九五	一	熊本一	政	松野 鶴平君
二五七	一	秋田一	民	町田 忠治君	三四四	三	富山二	民	松村 謙三君
三四八	八	新潟一	民	松井 郡治君	四二八	六	栃木二	政	松村 光三君
三五五	二	香川二	政	松浦 伊平君	九一	七	福岡一	無	松本治一郎君
二七八	六	北海道二	民	松浦周太郎君	三四五	一	長野一	民	松本 忠雄君
二二一	八	福岡二	民	松尾 三藏君	三五三	六	和歌山一	政	松山常次郎君
三四九	九	奈良	民	松尾 四郎君	三六七	七	長野一	政	丸山辨三郎君
三七五	八	北海道四	政	松尾 孝之君	(ニ)				
三五二	六	山形二	政	松岡 俊三君	三四	九	宮崎	第一	三浦 虎雄君
四五三	二	鹿兒島一	時	松方幸次郎君	四三三	六	德島二	時	三木 武夫君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四三九	四	岐阜二時	三	田村武夫君
四〇三	六	香川二政	三	土忠造君
六九	八	新潟三社	三	宅正一君
二七〇	五	鳥取民	三	好英之君
四〇八	五	熊本二政	三	善信房君
七四	六	東京五社	三	輪壽壯君
九八	七	京都一無	水	谷長三郎君
四三四	六	大阪六政	南	鼎三君
五〇	七	埼玉一政	宮	崎一君
二四八	九	長野三民	宮	澤胤勇君
一二四	三	廣島三政	宮	澤裕君
一七九	二	静岡一政	宮	本雄一郎君
四一三	二	香川一政	宮	脇長吉君
(五)				
四二二	七	北海道二政	村	上元吉君
三〇九	八	京都三民	村	上國吉君
三四七	二	愛媛三民	村	上紋四郎君
二九七	三	愛媛二民	村	瀬武男君
二六二	一	大阪二民	紫	安新九郎君
(七)				
二二〇	四	群馬二民	最	上政三君
九六	七	廣島二政	望	月圭介君
三四二	九	福島一民	栗	山博君
三四一	二	長野四民	百	瀬渡君
四一	九	宮城一第	守	屋榮夫君
三六四	九	滋賀政	森	幸太郎君
一六五	三	長崎二政	森	豐君
三〇八	九	栃木二民	森	下國雄君
二二二	五	青森一民	森	田重次郎君
四〇九	六	廣島三政	森	田福市君
(ヤ)				
四三六	二	鳥取時	由	谷義治君
四二四	一	岡山一政	行	吉角治君
一九三	九	埼玉二政	横	川重次君
一一五	八	千葉二政	吉	植庄亮君
三二七	一	大阪四民	吉	川吉郎兵衛君
四四一	一	兵庫三時	吉	田賢一君
一〇一	三	兵庫二無	米	窪滿亮君
三七〇	一	高知二政	依	光好秋君
(ウ)				
三九四	六	兵庫五政	若	宮貞夫君
二〇三	九	茨城一民	渡	邊健君
二二二	八	愛知三民	渡	邊玉三郎君
二九	四	北海道三無	渡	邊泰邦君
(フ)				
二六五	八	奈良民	八	木逸郎君
一七四	一	岩手一政	八	角三郎君
二六四	八	東京七民	八	並武治君
二三四	三	香川二民	矢	野庄太郎君
一三四	七	兵庫五政	山	川頼三郎君
一〇七	三	静岡一政	山	口忠五郎君
六八	三	静岡二社	山	崎鋤二君
一〇六	一	福岡三政	山	崎達之輔君
二六三	九	廣島二民	山	道襄一君
二三〇	四	東京六民	山	田清君
二九三	二	静岡一民	山	田順策君
二七四	六	福島三民	山	田六郎君
一二	三	鹿兒島三第	山	元龜次郎君
二七九	四	茨城三民	山	本桑吉君
三三四	六	北海道一民	山	本厚三君
一八四	九	大阪二政	山	本芳治君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二六五	八	奈良民	八	木逸郎君
一七四	一	岩手一政	八	角三郎君
二六四	八	東京七民	八	並武治君
二三四	三	香川二民	矢	野庄太郎君
一三四	七	兵庫五政	山	川頼三郎君
一〇七	三	静岡一政	山	口忠五郎君
六八	三	静岡二社	山	崎鋤二君
一〇六	一	福岡三政	山	崎達之輔君
二六三	九	廣島二民	山	道襄一君
二三〇	四	東京六民	山	田清君
二九三	二	静岡一民	山	田順策君
二七四	六	福島三民	山	田六郎君
一二	三	鹿兒島三第	山	元龜次郎君
二七九	四	茨城三民	山	本桑吉君
三三四	六	北海道一民	山	本厚三君
一八四	九	大阪二政	山	本芳治君
(備考)				
黨派欄中民ハ立憲民政黨、政ハ立憲政友會、時ハ時局同志會、第一ハ第一議員俱樂部、社ハ社會大衆				
黨、無ハ無所屬ノ略ナリ議員異動表亦同シ				

附録 第一 議員

前期議會會期終了ノ翌日ヨリ本期議會會期終了日ニ至ル間ニ於ケル議員ノ異動二十四名アリ其ノ氏名及異動事由ヲ示セハ左表ノ如シ

議員異動表(自第七十四回議會會期終了翌日)至第七十五回議會會期終了當日)

選舉區	前議員	黨派	異動事由	當選者	黨派	當選年月日
奈良縣	森 榮 藏君	政	選舉法 ^{昭和} 一四、三、二八 違反	北浦圭太郎君	無	昭和 ^{一四} 年四月二〇日
鹿兒島縣	藏園三四郎君	第一	逝去 一四、四、六			
長崎縣	中村不二男君	民	選舉法 ^{昭和} 一四、四、七 違反	本田英作君	政	一四、四、三〇
鳥取縣	稻田直道君	政	當選無效 一四、四、一〇	稻田直道君	政	一四、五、四
福岡縣	中野正剛君	無	辭職 一四、四、一一			
北海區	一柳仲次郎君	民	逝去 一四、四、一四			
富山縣	寺島權藏君	民	選舉法 ^{昭和} 一四、四、一八 違反	石坂豐一君	政	一四、五、一〇
愛知縣	山崎常吉君	第一	選舉法 ^{昭和} 一四、五、三 違反	加藤鏝五郎君	政	一四、五、二四
北海道	(林路一君)	第一	(逝去 一三、六、二七) 當選無效 一四、五、六	松浦周太郎君	民	一四、五、三〇
北海區	松浦周太郎君	民	當選無效 一四、五、六	村上元吉君	政	一四、五、三〇
大阪府	(森田政義君)	(政)	(逝去 一四、三、二二) 選舉法 ^{昭和} 一四、五、二〇 違反	吉川吉郎兵衛君	民	一四、六、一三
大坂府	川村保太郎君	社	選舉法 ^{昭和} 一四、五、二〇 違反	西尾末廣君	社	一四、六、一三

選舉區	前議員	黨派	異動事由	當選者	黨派	當選年月日
兵庫縣	田中源三郎君	政	選舉法 ^{昭和} 一四、八、四 違反	吉田賢一君	無	一四、八、二七
北海區	東 武君	政	逝去 一四、九、三			
三重縣	濱田國松君	政	逝去 一四、九、六			
山口縣	庄晋太郎君	政	逝去 一四、九、一四			
和歌山縣	木本圭一郎君	政	逝去 一四、九、一八			
東京府	斯波貞吉君	民	逝去 一四、一〇、一四			
宮崎縣	鈴木憲太郎君	民	選舉法 ^{昭和} 一四、一〇、二一 違反	鈴木憲太郎君	民	一四、一一、一八
京都府	江羅直三郎君	政	逝去 一四、一二、八			
茨城縣	葉梨新五郎君	政	選舉法 ^{昭和} 一四、一二、二〇 違反	渡邊健君	民	一五、一、一二
鹿兒島縣	小林三郎君	民	選舉法 ^{昭和} 一五、一、一七 違反	山元龜次郎君	第一	一五、二、一〇
東京府	賴母木桂吉君	民	逝去 一五、二、一九			
靜岡縣	高木桑太郎君	民	逝去 一五、三、四			
兵庫縣	齋藤隆夫君	無	除名 一五、三、七			
新潟縣	佐藤與一君	民	逝去 一五、三、二五			

尙參考ノ爲第二十回(臨時)總選舉後第七十四回議會會期終了當日迄ニ於ケル議員ノ異動ヲ示セハ左表ノ如シ

選舉區	前議	員	黨派	異動事由	當選者	黨派	當選年月日
第一城區	菅原	傳君	政	逝去 昭和二年五月九日	宮澤清作君	政	昭和二年五月二十四日
第一木區	石山寅吉君	社	逝去 一三、五、一六	坪山德彌君	政	一三、六、五	
第三知區	瀧正雄君	無	逝去 一三、一〇、二五	內藤守正君	民	一三、一、一〇	
第四海區	岡田春夫君	民	逝去 一三、二、二一	松尾孝之君	政	一三、二、三〇	
第一海區	山本悌二郎君	政	逝去 一三、二、二四	重井鹿治君	無	一三、一、一四	
第二山區	西村丹治郎君	民	逝去 一三、二、二〇	由谷義治君	東	一三、一、一〇	
鳥取縣	山橋儀重君	民	逝去 一三、二、二五	金澤正雄君	政	一三、一、一七	
第一馬區	飯塚春太郎君	民	逝去 一三、一、八	金澤正雄君	政	一三、一、一七	
第二島區	八田宗吉君	政	逝去 一三、一、一六	淡部英明君	民	一三、二、一〇	
第二知區	丹下茂十郎君	政	逝去 一三、二、四	服部英明君	民	一三、二、一〇	
第三海區	大竹貫一君	第一	逝去 一三、二、二四	藤井浩然君	政	一三、二、二一	
第三城區	赤城宗徳君	第一	逝去 一三、二、二四	山本桑吉君	民	一三、二、二六	
第四海區	南條徳男君	政	逝去 一三、二、二一	深澤吉平君	民	一三、三、四	
第一島區	菅野善右衛門君	政	逝去 一三、三、七	堀切善兵衛君	政	一三、三、一〇	
第一知區	富田幸次郎君	民	逝去 一三、三、三三	淺井茂猪君	政	一三、三、二五	

四四〇

選舉區	前議	員	黨派	異動事由	當選者	黨派	當選年月日
第四府區	西尾末廣君	社	除名 一三、三、三三	森田政義君	政	一三、三、二五	
長崎縣	倉成庄八郎君	政	逝去 一三、四、二二	則元卯太郎君	民	一三、五、一〇	
第一城區	宮澤清作君	政	逝去 一三、六、二四	宮澤清作君	政	一三、七、一四	
第二海區	林路一君	第一	逝去 一三、六、二七	(前表參看)			
第四海區	川合直次君	民	逝去 一三、八、四				
第二山區	重井鹿治君	無	逝去 一三、八、二三				
第二島區	瀧季松君	民	逝去 一三、九、三				
第五海區	東條貞君	政	逝去 一三、一〇、二一	東條貞君	政	一三、一一、二二	
第三海區	藤井浩然君	政	逝去 一三、一〇、二三				
第一重區	加藤久米四郎君	政	逝去 一四、一、七				
第二重區	田島勝太郎君	民	逝去 一四、一、二八				
第一城區	宮澤清作君	政	逝去 一四、三、一四	北村文衛君	民	一四、三、一四	
第五海區	遠山房吉君	民	逝去 一四、三、一七				
第四府區	森田政義君	政	逝去 一四、三、二一	(前表參看)			

本期議會ニ於ケル議員ノ控室左ノ如シ

附錄 第一 議員

四四一

- 第三乃至第五 立憲民政黨
- 第七 立憲政友會
- 第八 立憲政友會
- 第十二 社會大衆黨
- 第十四 無所屬、立憲政友會及立憲政友會新中立派
- 第十六 時局同志會
- 第十七 第一議員俱樂部

第二 國務大臣及政府委員

本期議會ニ於テハ當初阿部内閣ナリシカ昭和十五年一月十六日内閣更迭シ米内内閣トナレリ而シテ國務大臣及政府委員ノ氏名ヲ示セハ左ノ如シ

國務大臣

一 阿部内閣

内閣總理大臣 阿部信行君

二 米内内閣

遞信大臣	永井柳太郎君
陸軍大臣	畑俊六君
大藏大臣	青木一男君
海軍大臣	吉田善吾君
内務大臣	小原直君
司法大臣	宮城長五郎君
商工大臣	伍堂卓雄君
拓務大臣	金光庸夫君
文部大臣	河原田稼吉君
外務大臣	野村吉三郎君
農林大臣	酒井忠正君
厚生大臣	秋田清君
鐵道大臣	永田秀次郎君
内閣總理大臣	米内光政君

外務大臣	有田八郎君
陸軍大臣	櫻内幸雄君
海軍大臣	畑俊六君
農林大臣	吉田善吾君
文部大臣	島田俊雄君
拓務大臣	松浦鎮次郎君
司法大臣	小磯國昭君
內務大臣	木村尙達君
厚生大臣	兒玉秀雄君
遞信大臣	吉田茂君
商工大臣	勝正憲君
鐵道大臣	藤原銀次郎君
	松野鶴平君

政府委員

政府委員

(昭十五年一月十六日 依願免本官)	內閣書記官長	遠藤柳作君
(昭十五年一月三十一日被仰付)	內閣書記官長	石渡莊太郎君
(昭十五年二月二日被仰付)	內閣恩給局長	平木弘君
(同)	內閣統計局長	川島孝彥君
(同)	內閣東北局長	宇都宮孝平君
(昭十五年一月十六日 依願免本官)	內閣紀元二千六百年 祝典事務局局長	歌田千勝君
(昭十五年一月三十一日被仰付)	法制局長官	唐澤俊樹君
	法制局長官	廣瀬久忠君
	法制局參事官	樋貝詮三君
	法制局參事官	森山銳一君
	法制局參事官	入江俊郎君
(昭十五年一月三十一日被仰付)	企畫院總裁	竹内可吉君
(昭十五年一月二十五日 依願免本官)	企畫院次長	武部六藏君
(昭十五年一月三十一日被仰付)	企畫院次長	植村甲午郎君
(昭十五年二月二日被仰付)	企畫院部長	原口武夫君

附錄 第二 國務大臣及政府委員

(昭和十五年二月二日被仰付) 企畫院 部長 沼田多稼藏君
 (同) 企畫院 部長 阿部嘉輔君
 (昭和十五年三月二日被仰付) 對滿事務局 次長 荒川昌二君
 對滿事務局 事務官 竹內德治君
 內閣情報部 部長 橫溝光暉君
 (昭和十五年二月二十六日任) 內閣情報部 部長 熊谷憲一君
 (昭和十五年二月二十八日被仰付) 內閣情報部 部長 柳川平助君
 興亞院 總務長官 鈴木貞一君
 (昭和十五年二月二日被仰付) 興亞院 部長 日高信六郎君
 (同) 興亞院 部長 松村幸齋君
 (昭和十五年二月三日被仰付) 關東局 司政部長 今吉敏雄君
 (昭和十五年一月三十一日被仰付) 關東局 事務官 沼田龍太郎君
 外務省所管事務政府委員 平本
 (昭和十五年一月二十四日依願免本官) 外務政務次官 多田滿長君
 (昭和十五年一月三十一日被仰付) 外務政務次官 小山谷藏君

(昭和十五年一月二十四日依願免本官) 外務 參與官 依光好秋君
 (昭和十五年一月三十一日被仰付) 外務 參與官 小高長三郎君
 外務省 東亞局長 堀內干城君
 外務省 歐亞局長 西春一彦君
 外務省 亞米利加局長 吉澤清次郎君
 外務省 通商局長 山本熊一君
 外務省 條約局長 三谷隆信君
 外務省 情報部長 須磨彌吉郎君
 外務省 調查部長 松宮順君
 (同) 外務省 書記官 石井一康君
 內務省所管事務政府委員 山
 (昭和十五年一月二十四日依願免本官) 內務政務次官 加藤鯛一君
 (昭和十五年一月三十一日被仰付) 內務政務次官 鶴見祐輔君
 (昭和十五年一月二十四日依願免本官) 內務 參與官 福井甚三君
 (昭和十五年一月三十一日被仰付) 內務 參與官 青山憲三君

內務省神社局長 中野與吉郎君
 內務省地方局長 挾間 茂君
 內務省警保局長 本間 精君
 內務省警保局長 山崎 巖君
 內務省土木局長 山崎 巖君
 內務省土木局長 成田 一郎君
 內務省計畫局長 松村光 磨君
 內務省書記官 山内逸 造君
 內務省書記官 灘尾弘 吉君
 內務省書記官 古井喜 實君
 內務省書記官 三好重 夫君
 北海道廳長官 戶塚九 一郎君

大藏省所管事務政府委員
 大藏政務次官 清瀬規矩雄君
 大藏政務次官 木村正 義君

(昭和十五年一月十九日 依願免本官)
 (昭和十五年一月三十一日被仰付)
 (昭和十五年一月十九日 任內務省警保局長)
 (昭和十五年一月三十一日被仰付)
 (昭和十五年三月六日被仰付)
 (昭和十五年二月二十七日被仰付)
 (昭和十五年二月七日被仰付)
 (昭和十五年一月三十一日被仰付)

(昭和十五年一月二十四日 依願免本官)
 (昭和十五年一月三十一日被仰付)

大藏參與官 豐田 豐吉君
 大藏參與官 松田正 一君
 大藏省主計局長 谷口恒 二君
 大藏省主稅局長 大矢半 次郎君
 大藏省理財局長 相田岩 夫君
 大藏省銀行局長 入間野 武雄君
 大藏省為替局長 中村孝 次郎君
 大藏書記官 永井 勻君
 大藏書記官 田中 豐君
 大藏書記官 山田義 見君
 大藏書記官 植木庚 子郎君
 大藏書記官 氏家 一武君
 大藏書記官 前田克 己君
 大藏書記官 湯地謹 爾郎君
 大藏書記官 池田勇 人君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)
 (昭和十五年二月二日被仰付)
 (昭和十五年一月三十一日被仰付)
 (同)
 (同)
 (昭和十五年二月七日被仰付)

(昭和十五年二月七日被仰付)

大藏書記官 秋元順朝君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

預金部資金局長 廣瀬豐作君

(昭和十五年二月三日)

營繕管財局理事 松隈秀雄君

(依願免本官)

專賣局長官 荒井誠一郎君

(昭和十五年二月三日被仰付)

專賣局長官 花田政春君

陸軍省所管事務政府委員

(昭和十五年一月二十四日)

陸軍政務次官 宮澤胤勇君

(依願免本官)

陸軍政務次官 三好英之君

(昭和十五年一月二十四日)

陸軍參與官 小山田義孝君

(依願免本官)

陸軍參與官 宮崎一君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

陸軍主計中將 石川半三郎君

(依願免本官)

陸軍少將 武藤章君

(昭和十五年一月二十四日)

陸軍主計大佐 森田親三君

海軍省所管事務政府委員

(昭和十五年一月二十四日)

陸軍步兵大佐 河村參郎君

(昭和十五年一月二十四日)

海軍政務次官 西岡竹次郎君

(依願免本官)

海軍政務次官 松山常次郎君

(昭和十五年一月二十四日)

海軍參與官 眞鍋儀十君

(依願免本官)

海軍參與官 小山邦太郎君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

海軍主計中將 武井大助君

(依願免本官)

海軍少將 阿部勝雄君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

海軍主計大佐 爲本博篤君

(依願免本官)

海軍大佐 矢野英雄君

(昭和十五年一月二十四日)

海軍大佐 千田金二君

(依願免本官)

司法省所管事務政府委員 森田福市君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

司法政務次官 星島二郎君

(依願免本官)

司法參與官 眞鍋勝君

(昭和十五年一月二十四日)

司法參與官 子爵高木正得君

(同)

司法省民事局長 坂野千里君

(昭和十五年二月六日被仰付)

司法省刑事局長 黒川 涉君
司法書記官 石田 壽君

文部省所管事務政府委員

(昭和十五年一月二十四日 依願免本官)

文部政務次官 作田高太郎君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

文部政務次官 子爵舟橋清賢君

(昭和十五年一月二十四日 依願免本官)

文部參與官 伊豆富人君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

文部參與官 仲井間宗一君

文部省專門學務局長 關口鯉吉君

文部省普通學務局長 中野善敦君

文部省實業學務局長 岩松五良君

文部省社會教育局長 田中重之君

文部省圖書局長 近藤壽治君

文部省宗教局長 松尾長造君

文部書記官 永井 浩君

教學局長 小林光政君

(昭和十五年一月二十七日 依願免本官)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

教學局長 菊池豐三郎君

(昭和十五年二月十七日被仰付)

教學局部長 安井章一君

農林省所管事務政府委員

(昭和十五年一月二十四日 依願免本官)

農林政務次官 村上國吉君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

農林政務次官 岡田喜久治君

(昭和十五年一月二十四日 依願免本官)

農林參與官 小笠原三九郎君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

農林參與官 松木 弘君

農林省農務局長 土屋正三君

農林省山林局長 田中長茂君

農林省水產局長 栗屋仙吉君

農林省畜產局長 岸 良一君

農林省蠶絲局長 吉田清二君

農林省米穀局長 橫山敬教君

農林省經濟更生部長 周東英雄君

農林省臨時農村對策部長 重政誠之君

- (昭和十五年三月十五日被仰付) 農林書記官 岡本直人君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 農林書記官 梶原茂嘉君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 農林書記官 石井英之助君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 農林書記官 村上富士太郎君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 農林書記官 石本寅三君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 農林書記官 三須武男君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 橫川重次君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 加藤錄五郎君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 小山倉之助君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 喜多壯一郎君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 小金義照君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 塩谷狩野吉君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 永田彦太郎君
- (昭和十五年三月十五日被仰付) 馬政局事務官 鈴木英雄君

商工省所管事務政府委員

- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 橫川重次君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 加藤錄五郎君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 小山倉之助君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 喜多壯一郎君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 小金義照君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 塩谷狩野吉君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 永田彦太郎君
- (昭和十五年一月二十四日) 商工政務次官 鈴木英雄君

- (同) 商工省纖維局長 辻 謹 吾君
- (同) 商工省監理局長 牧 樽 雄君
- (同) 商工省振興部長 妹川武人君
- (同) 商工書記官 椎名悅三郎君
- (同) 商工書記官 山本 茂君
- (昭和十五年一月三十一日被仰付) 特許局長官 大貝晴彦君
- (同) 燃料局長官 東 榮 二君
- (昭和十五年三月六日被仰付) 燃料局事務官 柳原博光君
- (昭和十五年三月九日被仰付) 燃料局事務官 酒井喜四君
- (昭和十五年一月三十一日被仰付) 貿易局長官 小島新一君
- (昭和十五年二月二十七日被仰付) 貿易局部長 菱 沼 勇君
- (昭和十五年一月三十一日被仰付) 物價局次長 新倉利廣君

遞信省所管事務政府委員

- (昭和十五年一月二十四日) 遞信政務次官 田中万逸君
- (昭和十五年一月二十四日) 遞信政務次官 武知勇記君

(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

- 遞信參與官 東條 貞君
- 遞信參與官 藤生安太郎君
- 遞信省郵務局長 森島美之助君
- 遞信省電務局長 田村謙治郎君
- 遞信省管理局長 山田 良 秀君
- 遞信省工務局長 荒川大太郎君
- 遞信省管船局長 伊勢谷次郎君
- 遞信省經理局長 手 島 榮君
- 貯金局長 荻原丈 夫君
- 電氣廳長官 平井出貞三君
- 電氣廳部長 藤井崇 治君
- 電氣廳部長 森 秀君
- 航空局長官 藤原保 明君
- 航空局部長 福原敬 次君
- 航空局部長 櫻井忠 武君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

(同)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

(同)

鐵道省所管事務政府委員

(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

- 鐵道政務次官 原 惣兵衛君
- 鐵道政務次官 宮 澤 裕君
- 鐵道參與官 坂東幸太郎君
- 鐵道參與官 大島寅 吉君
- 鐵道監督局長 鈴木清 秀君
- 鐵道省運輸局長 長崎惣之助君
- 鐵道省建設局長 堀越清 六君
- 鐵道省工務局長 阿曾沼 均君
- 鐵道省工作局長 德永晋 作君
- 鐵道省電氣局長 森田重 彥君
- 鐵道省經理局長 池井啓 次君
- 拓務省所管事務政府委員
- 拓務政務次官 津雲國 利君
- 拓務政務次官 松岡俊 三君

(昭和十五年二月十四日被仰付)

(同)

(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

- 拓務參與官 笠井重治君
- 拓務參與官男爵加藤成之君
- 拓務省管理局長 副島勝君
- 拓務省殖產局長 植場鐵三君
- 拓務省拓務局長 安井誠一郎君
- 拓務書記官 森重千夫君
- 朝鮮總督府政務總監 大野綠一郎君
- 朝鮮總督府財務局長 水田直昌君
- 朝鮮總督府鐵道局長 山田新十郎君
- 臺灣總督府總務長官 森岡二郎君
- 臺灣總督府財務局長 中嶋一郎君
- 樺太廳長官 棟居俊一君
- 南洋廳長官 北島謙次郎君

厚生省所管事務政府委員

厚生政務次官

三浦虎雄君

(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)

(昭和十五年二月十七日被仰付)

(昭和十五年一月三十一日被仰付)
(昭和十五年一月二十四日
依願免本官)
(昭和十五年一月三十一日被仰付)

- 厚生政務次官 一松定吉君
- 厚生參與官 永山忠則君
- 厚生參與官 飯村五郎君
- 厚生省體力局長 佐々木芳遠君
- 厚生省衛生局長 林信夫君
- 厚生省豫防局長 高野六郎君
- 厚生省社會局長 新居善太郎君
- 厚生省勞働局長 藤原孝夫君
- 厚生省職業部長 內藤寬一君
- 厚生書記官 川村秀文君
- 厚生書記官 曾我梶松君
- 厚生書記官 床次德二君
- 保險院總務局長 進藤誠一君
- 保險院總務局長 佐藤基君
- 保險院社會保險局長 清水玄君

附錄 第一 國務大臣及政府委員

(同)

保險院簡易保險局長 藤川 靖君

軍事保護院副總裁 兒玉 政介君

(昭和十五年一月三十一日被仰付)

軍事保護院援護局長 數藤 鐵臣君

(同)

軍事保護院業務局長 櫻井 安右衛門君

(備考) 政府委員被仰付ノ日附記入ナキモノハ孰レモ本期議會本院成立當日即チ昭和十四年十二月二十四日第七十五回帝國議會政府委員被仰付

第三 委員

委員氏名

第一 全院委員

委員長 百 瀨 渡君

第二 常任委員

豫算委員

委員長 三 土 忠 造君

理事 工 藤 鐵 男君 理事 篠 原 陸 朗君 理事 中 村 三 之 丞君

理事 喜多壯一君補闕 田 村 秀 吉君 理事 山 本 芳 治君 理事 岸 田 正 記君

理事 石 坂 豐 一君 理事 肥田塚司君其ノ補闕 增永元也君其ノ補闕 板谷順助君其ノ補闕 猪野毛利榮君 理事 水谷長三郎君補闕 塚本重藏君其ノ補闕 西尾末廣君其ノ補闕 田 原 春 次君

第一部

工 藤 鐵 男君 篠 原 陸 朗君 小 川 郷 太 郎君 木暮武太夫君補闕 助川啓四郎君

三 土 忠 造君 石 坂 豐 一君 三 宅 正 一君

第二部

中 島 彌 團 次君 堤廣次郎君補闕 眞 鍋 勝君 櫻井兵五郎君補闕 眞 鍋 儀 十君 石 坂 養 平君

三善信房君補闕 板谷順助君其ノ補闕 猪野毛利榮君 塚本重藏君 守屋榮夫君補闕 朴 春 琴君

第三部

小山谷藏君補闕 北吟吉君其ノ補闕 清水德太郎君 前田房之助君 平川松太郎君補闕 山道憲一君其ノ補闕 平川松太郎君其ノ補闕 山道憲一君其ノ補闕 平川松太郎君其ノ補闕 吉植庄亮君

附錄 第三 委員

安藤正純君補闕

松浦伊平君

富吉榮二君補闕

西尾末廣君

馬場元治君補闕
平野力三君其補闕
馬場元治君其補闕
小田榮君其補闕
山元龜次郎君

第四部

原夫次郎君

紫安新九郎君補闕

森下國雄君

小畑虎之助君

星一君補闕

稻田直道君

松岡俊三君補闕
田中亮一君其補闕

增永元也君

田原春次君

坂本宗太郎君補闕
笠井重治君

第五部

田村秀吉君

中村三之丞君

喜多壯一郎君補闕
松本忠雄君

八角三郎君補闕
窪井義道君

志賀和多利君補闕

牧野良三君

水谷長三郎君

第六部

矢野庄太郎君

松村謙三君

山本厚三君

加藤知正君

加藤鐵五郎君補闕
山口忠五郎君其補闕
助川啓四郎君其補闕

川島正次郎君

板野友造君補闕

小谷節夫君

由谷義治君

第七部

川崎克君補闕
長井源君其補闕

川崎克君

村松久義君補闕
坂下仙一郎君其補闕

村松久義君

堀内良平君補闕
池田秀雄君

山本芳治君

岸田正記君

肥田孫司君補闕

河野一郎君

小山亮君補闕
三木武夫君

第八部

松永東君補闕

最上政三君

沖島鎌三君補闕
篠原義政君其補闕

山崎達之輔君

小泉純也君

藏原敏捷君補闕
石坂繁君其補闕

清瀬一郎君

太田正孝君

第九部

末松偕一郎君

齋藤直橋君補闕

松尾四郎君

木村正義君補闕
川島正次郎君其補闕

金井正夫君

藤生安太郎君補闕
松尾孝之君其補闕

江藤源九郎君補闕
朴春琴君其補闕

吉田賢一君

松村光三君補闕
武田德三郎君其補闕

安藤正純君

吉田賢一君

松村光三君

決算委員

委員長 青木精一君

理事 福田關次郎君 理事 成島勇君

理事 松浦周太郎君補闕 理事 宮本雄一郎君

理事 鹽川正藏君 理事 井上良次君 理事 今井新造君

第一部

福田關次郎君 松浦周太郎君補闕 駒井重次君 青木精一君 鹽川正藏君

今井新造君

第二部

小林三郎君補闕 成島勇君 古田喜三太君 宮本雄一郎君 世耕弘一君

小野謙一君

第三部

土屋北浦圭太郎君補闕 寬君 鈴木憲太郎君補闕 內藤守正君 石坂養平君補闕 高橋泰雄君 森幸太郎君

伊禮肇君

第四部

森下國雄君 源君 南雲正朔君 小平重吉君 立川平君補闕 西川貞一君

小谷節夫君補闕 田中源君

第五部

字賀四郎君 今成留之助君 工藤十三雄君補闕 小山田義孝君 林讓治君

田中耕君

第六部

古島義英君補闕 山田順策君 愛野時一郎君 馬岡次郎君補闕 樋口善右衛門君 中野治介君

井上良次君

第七部

長野長廣君 西田郁平君 木村作次郎君 國光五郎君

米窪滿亮君

第八部

卯尾田毅太郎君 仲西三良君 曾和義式君補闕 濱地文平君 加藤錄造君

曾木重貴君

第九部

土田莊助君 塚本三君 小林絹治君 豐田收君

松本治一郎君

請願委員

委員長 清 寬君

附錄 第三 委員

理事 澤田利吉君補闕 理事 山本条吉君 理事 石井徳久次君
 理事 坂東幸太郎君 理事 川俣清音君補闕 理事 三田村武夫君
 理事 瀧澤七郎君 理事 杉山元治郎君 理事

第一部

清 寛君 澤田利吉君補闕 坂東幸太郎君 石井徳久次君 瀧澤七郎君
 三田村武夫君

第二部

山本条吉君 木村淺七君 青山憲三君補闕 永田良吉君 庄司一郎君
 石春琴君補闕 繁君

第三部

渡邊玉三郎君 坂下仙一郎君 大内竹之助君補闕 紅露昭君 中田儀直君
 石坂

第四部

伊藤東一郎君 深澤吉平君 江原三郎君補闕 田代正治君 高島龜太郎君
 南鼎三君

第五部

北村文衛君 仲井間宗一君補闕 小野寅吉君 小笠原八十美君 小見山七十五郎君
 北勝太郎君

第六部

木原七郎君 山田六郎君 稻田直道君 綾部健太郎君
 佐竹晴記君

第七部

内藤正剛君 岡野龍一君 樋口善右衛門君 伊東岩男君
 川俣清音君補闕 杉山元治郎君

第八部

小泉純也君 田中邦治君 山川頼三郎君 須永好君
 安藤孝三君

第九部

長井源君補闕 齋藤直橋君 福田悌夫君 一ノ瀬俊民君 川崎巳之太郎君
 松永義雄君

懲罰委員

附錄 第三 委員

委員長 松木弘君補闕 中井一夫君

理事 池田清秋君補闕 原玉重君補闕
平野光雄君 中山福藏君其ノ補闕
理事 本田英作君 中村三之丞君
理事 村松久義君 理事 原牛九夫君補闕
原惣兵衛君

第一部

池田清秋君補闕 原玉重君補闕
平野光雄君 中山福藏君其ノ補闕
村松久義君 野口喜一君

第二部

中山福藏君補闕 高橋義次君補闕
川副隆君其ノ補闕 眞鍋儀十君 中井一夫君
勝田水吉君其ノ補闕

第三部

松尾三藏君補闕 玉野知義君 木村武雄君
平川松太郎君其ノ補闕 西田郁平君

第四部

伊藤五郎君補闕 高見之通君 本田英作君
田中邦治君其ノ補闕 卯尾田毅太郎君

第五部

片岡恒一君補闕 高橋泰雄君補闕 伊禮肇君補闕
作田高太郎君其ノ補闕 江原三郎君 今中義達君其ノ補闕
深澤吉平君 泉國三郎君 長谷長次君

第六部

小林房之助君補闕 寺田市正君補闕
古田喜三太君 上田孝吉君 村上元吉君

第七部

內藤守正君補闕 春名成章君補闕
入並武治君其ノ補闕 惣兵衛君 中村高一君
藤田若水君其ノ補闕
坂下仙一郎君

第八部

山田順策君補闕 原惣兵衛君 中村高一君
伊藤五郎君

第九部

森田重次郎君 簡牛九夫君 菊地養之輔君

建議委員

委員長 岡本實太郎君補闕 橋君
理事 村瀬武男君 理事 釘本衛雄君 理事 濱地文平君
理事 小串清一君

- 第一部 岡本實太郎君補闕 齋藤直 橋君 村瀬武男君 小串清一君
- 第二部 釘本衛雄君 高橋壽太郎君補闕 長野高一君 中野寅吉君補闕 庄司一郎君
- 第三部 則元卯太郎君 淺井茂猪君補闕 肥田琢司君 青木作雄君
- 第四部 津倉龜作君補闕 川崎末五郎君 濱地文平君 坂田道男君補闕 野口喜一君
- 第五部 大野一造君 野方次郎君 中原謹司君
- 第六部 中野邦一君補闕 山田清君 坪山徳彌君 安倍寛君
- 第七部 長野綱良君 田代正治君 村上元吉君補闕 行吉角治君
- 第八部

- 大島寅吉君補闕 健君 鶴惣市君補闕 沖島鎌三君 河合義一君
- 波邊 第九部
- 中川重春君 金澤正雄君 野溝勝君
- 第三 特別委員

昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外二十二件委員

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)(第二號)

職員健康保險特別會計法案(政府提出)(第三號)

作業會計法中改正法律案(政府提出)(第四號)

造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案(政府提出)(第五號)

昭和十三年法律第五十三號中改正法律案(印刷局据置運轉資本補足ニ關スル件)(政府提出)(第六號)

政府出資特別會計法案(政府提出)(第四六號)

陸軍航空工廠資金特別會計法案(政府提出)(第五五號)

資金特別會計法中改正法律案(政府提出)(第五六號)

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收

入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)(政府提出)(第五七號)

昭和九年法律第四十五號中改正法律案(貿易調節及通商擁護ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)(第五九號)

昭和十三年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

昭和十三年度特別會計第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

昭和十三年度特別會計豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

昭和十四年度第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

昭和十四年度豫備金外豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

昭和十四年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

昭和十四年度特別會計豫備金外豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)(第九七號)

陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出)(第一〇一號)昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出)(第一〇八號)

支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)(第一一〇號)外國爲替管理法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第九八號)

委員長 紫安新九郎君
理事 宇賀四郎君
理事 森幸太郎君補闕
理事 小串清一君

矢野庄太郎君補闕
池本甚四郎君
理事 鶴惣市君

紫安新九郎君 宇賀四郎君
林平馬君補闕 田中邦治君補闕
飯田助夫君 池田清秋君
南雲正朔君 川副隆君
八角三郎君 春名成章君
鶴惣市君 森幸太郎君
高島龜太郎君 河合義一君
小野謙一君 笠井重治君

矢野庄太郎君補闕
池本甚四郎君
駒井重次君
内藤守正君
木村作次郎君
小谷節夫君
前川正一君
田中源君
古田喜三太君補闕
原玉重君其ノ補闕
長井源君其ノ補闕
眞鍋儀十君
釘本衛雄君
横川重次君
小野廉君
小串清一君
三木武夫君

所得税法改正法律案(政府提出)外四十四件委員

法人税法案(政府提出)(第八號)
特別法人税法案(政府提出)(第九號)
配當利子特別税法案(政府提出)(第一〇號)
外貨債特別税法中改正法律案(政府提出)(第一一號)
相続税法中改正法律案(政府提出)(第一二號)
建築税法案(政府提出)(第一三號)
鑛區税法案(政府提出)(第一四號)
臨時利得税法中改正法律案(政府提出)(第一五號)
營業税法案(政府提出)(第一六號)
地租法中改正法律案(政府提出)(第一七號)
酒税法案(政府提出)(第一八號)
清涼飲料税法中改正法律案(政府提出)(第一九號)
砂糖消費税法中改正法律案(政府提出)(第二〇號)
織物消費税法中改正法律案(政府提出)(第二一號)
揮發油税法中改正法律案(政府提出)(第二二號)
物品税法案(政府提出)(第二三號)
遊興飲食税法案(政府提出)(第二四號)
取引所税法中改正法律案(政府提出)(第二五號)
通行税法案(政府提出)(第二六號)
入場税法案(政府提出)(第二七號)
印紙税法中改正法律案(政府提出)(第二八號)
骨牌税法中改正法律案(政府提出)(第二九號)
狩獵法中改正法律案(政府提出)(第三〇號)

明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)(第三一號)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)(第三二號)
支那事變特別稅法及臨時租稅徵收法廢止法律案(政府提出)(第三三號)
營業收益稅法廢止法律案(政府提出)(第三四號)
資本金子稅法廢止法律案(政府提出)(第三五號)
法人資本稅法廢止法律案(政府提出)(第三六號)
臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)(第三七號)
地方稅法案(政府提出)(第四七號)
地方分與稅法案(政府提出)(第四八號)
府縣制中改正法律案(政府提出)(第四九號)
市制中改正法律案(政府提出)(第五〇號)
町村制中改正法律案(政府提出)(第五一號)
北海道會法中改正法律案(政府提出)(第五二號)
北海道地方費法中改正法律案(政府提出)(第五三號)
地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)(第五四號)
家屋稅法案(政府提出)(第五五號)
所得稅法人稅内外地關涉法案(政府提出)(第五六號)
昭和十二年法律第九十四號中改正法律案(支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等

ニ關スル件(政府提出)(第七四號)
大正十三年法律第六號中改正法律案(外國船舶ノ所得稅等免除ニ關スル件)(政府提出)(第七五號)
アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改

正ニ關スル法律案(政府提出)(第七六號)
租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)(第七七號)

委員長 堀切善兵衛君

理事 小山倉之助君 理事 濱野徹太郎君 理事 木村淺七君

理事 高橋熊次郎君 理事 小笠原三九郎君 理事 立川平君

理事 河野密君補闕 理事 佐竹晴記君

小山倉之助君 濱野徹太郎君 木村淺七君 長野高一君

山本桑吉君補闕 成島勇君 池本甚四郎君 川崎末五郎君補闕 中島彌團次君

高橋壽太郎君 內藤正剛君 長野長廣君 愛野時一郎君補闕 服部英明君

中村三之丞君補闕 津倉龜作君補闕 飯田助夫君 櫻井兵五郎君補闕 愛野時一郎君

川崎末五郎君 津倉龜作君補闕 飯田助夫君 渡邊玉三郎君補闕 渡邊吉平君其ノ補闕 渡邊玉三郎君

澤田利吉君補闕 堀本三君 伊藤五郎君其ノ補闕 堀切善兵衛君 池田七郎兵衛君補闕 石井德久次君

小笠原三九郎君 石井德久次君補闕 宮本雄一郎君 船田中君 高橋熊次郎君 森肇君

上田孝吉君 山川賴三郎君 豐田收君 森肇君

立川平君 森田福市君 田中好君補闕 板谷順助君其ノ補闕 好君 西川貞一君

瀧澤七郎君 小見山七十五郎君 松浦伊平君補闕 鈴木英雄君 佐竹晴記君

阿部茂夫君 松永義雄君 永江一夫君 石坂繁君

道家齊一郎君 青木作雄君 藤本捨助君 北勝太郎君

武田德三郎君

船員保險特別會計法案(政府提出)外七件委員

船員保險事業ノ經營ニ伴フ關係各會計間ノ分擔及關涉ニ關スル法律案(政府提出)(第三九號)
臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)(第四〇號)
臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)(第四一號)

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)(第四二號)
臺灣私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)(第六五號)
樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)(第七〇號)
樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)(第八〇號)

委員長 中野治介君

理事 多田滿長君 理事 中川重春君 理事 野方次郎君

理事 中野寅吉君

多田滿長君 中川重春君 高木桑太郎君補闕 坂東幸太郎君 松尾三藏君

眞鍋儀十君 小林房之助君補闕 青木亮貫君 則元卯太郎君 山本厚三君

村上紋四郎君補闕
 粟山 博君
 飯田助夫君
 小野寅吉君
 野方次郎君
 田代正治君
 濱地文平君
 太田理一君
 清瀬規矩君補闕
 依光好秋君補闕
 沖島鎌三君
 中野治介君
 中野寅吉君
 石坂豐一君
 米窪滿亮君補闕
 前川正一君其ノ補闕
 岡崎憲君補闕
 田中 好君
 中村高一君
 井上良次君
 小山 亮君
 曾木重貴君補闕
 三浦虎雄君
 岩瀬 亮君

東北興業株式會社法中改正法律案(政府提出)外一件委員
 東北振興電力株式會社法中改正法律案(政府提出)(第四四號)

委員長 野村嘉六君
 井上知治君補闕
 理事 林平馬君
 森田重次郎君
 理事 庄司一郎君
 野村嘉六君
 信太儀右衛門君
 森田重次郎君
 栗山 博君
 林平馬君
 菊池良一君
 仲西三良君
 清水徳太郎君
 高橋壽太郎君
 北村文衛君
 釘本衛雄君
 大内竹之助君
 小平重吉君
 熊谷直太君
 小笠原八十美君
 松川昌藏君
 井上知治君
 庄司一郎君
 大石倫治君
 東條 貞君

佐藤啓君補闕
 木村武雄君

中田儀直君
 菊地養之輔君
 川俣清香君
 小野謙一君
 田中 耕君
 村上元吉君

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)外六件委員

裝師師法案(政府提出、貴族院送付)(第六〇號)
 獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)(第九三號)
 家畜傳染病預防法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
 木炭需給調節特別會計法案(政府提出)(第一〇五號)
 日本瓦斯用木炭株式會社法案(政府提出)(第一〇六號)
 牧野法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第八七號)

委員長 小林絹治君
 森下國雄君補闕
 深澤吉平君其ノ補闕
 理事 伊藤藤五郎君
 森幸太郎君補闕
 中田儀直君其ノ補闕
 理事 淺井茂猪君
 土屋寬君補闕
 伊藤藤五郎君
 高橋義次君
 高田 耘平君
 土田莊助君補闕
 小泉 純也君
 坂下仙一郎君補闕
 山本象吉君其ノ補闕
 堀内良平君其ノ補闕
 山本象吉君
 今成留之助君補闕
 松尾四郎君其ノ補闕
 木檜三四郎君
 福田梯夫君補闕
 岡野龍一君其ノ補闕
 長野 綱良君
 坪山徳彌君
 森幸太郎君補闕
 中田儀直君其ノ補闕
 淺井茂猪君
 助川啓四郎君
 小林絹治君
 小笠原八十美君

國光五郎君補闕
小串清一君
平野力三君
村上元吉君

須永好君補闕
野滿勝君其ノ補闕
山崎鋤二君其ノ補闕
川俣清音君

吉田賢一君補闕
小野謙一君

鑛業法中改正法律案(政府提出)外三件委員

砂鑛法中改正法律案(政府提出)(第六三號)
有機合成事業法案(政府提出)(第八三號)

石炭配給統制法案(政府提出)(第九一號)

委員長 櫻井兵五郎君

理事 澤田利吉君
理事 篠原義政君
理事 川俣清音君

松尾三藏君補闕
山田清君其ノ補闕
松尾三藏君
依光好秋君補闕
松尾孝之君

櫻井兵五郎君

澤田利吉君

中井川 浩君

松尾三藏君補闕
山田清君其ノ補闕
松尾三藏君

山本厚三君

手代木隆吉君

岡野龍一君

內藤正剛君

村松久義君

小柳牧衛君補闕
川崎末五郎君

森下國雄君補闕
宮澤胤勇君

長野長廣君補闕
堤康次郎君

卯尾田毅太郎君

山田順策君

篠原義政君

小山田義孝君

匹田銳吉君

井阪豐光君

木暮武太夫君

久山知之君

鶴惣市君

石井德久次君補闕
川崎巳之太郎君

原口初太郎君

瀧澤七郎君

東條貞君

松尾孝之君補闕
森田福市君其ノ補闕
河野一郎君

依光好秋君

瀧澤七郎君補闕
松尾孝之君

川俣清音君

松本治一郎君

加藤錄造君

岩瀬亮君補闕
武田德三郎君其ノ補闕
岩瀬亮君其ノ補闕
三田村武夫君

小池四郎君

長谷長次君

坂本宗太郎君補闕
朴春琴君

松村光三君

輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案(政府提出)外五件委員

商工組合中央金庫法中改正法律案(政府提出)(第七一號)
損害保險國營再保險法案(政府提出)(第八二號)
商業組合法中改正法律案(政府提出)(第九〇號)

輸出毛織物取締法案(政府提出、貴族院送付)(第八八號)
損害保險國營再保險特別會計法案(政府提出)(第一〇七號)

委員長 井上知治君

理事 西田郁平君
理事 鹽川正藏君
理事 西田郁平君
理事 古田喜三太君
理事 古田喜三太君
理事 曾和義弍君
理事 西田郁平君
理事 古田喜三太君
理事 曾和義弍君
理事 鹽川正藏君
理事 古田喜三太君
理事 曾和義弍君
理事 西田郁平君
理事 古田喜三太君
理事 曾和義弍君

津原 武君 多田滿長君補闕 最上 政三君 松田竹千代君 福田關次郎君
 原玉重君補闕 片岡恒一君 小畑虎之助君 川副 隆君 井上 知治君
 川島正次郎君 野方次郎君補闕 上田 孝吉君 宮本雄一郎君 星一君補闕
 曾和義式君 小谷節夫君 綾部健太郎君補闕 世耕 弘一君 田代 正治君
 鹽川正輔君 中村高一君 須永 好君 池崎 忠孝君 小串清一君補闕
 高岡大輔君 山元龜次郎君 武田德三郎君補闕 岩瀬亮君其補闕 池崎 忠孝君
 松村光三君

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案(政府提出)外二件委員
 現役小學校教員俸給費國庫負擔法改正法律案(政府提出)(第六七號)
 職業紹介法中改正法律案(政府提出)(第六九號)

委員長 服部 岩吉君 池田七郎兵衛君補闕 松川 昌藏君
 理事 長井 源君 伊藤東一郎君 理事 吉川吉郎兵衛君
 理事 庄司一郎君 伊藤東一郎君 理事 松永 東君
 長井 源君 伊藤東一郎君 土屋清三郎君 吉川吉郎兵衛君
 青木亮實君補闕 古島義英君補闕 多田 滿長君 北原阿智之助君 松永 東君
 福田關次郎君 渡邊 健君 高橋 義次君 池田七郎兵衛君
 片岡恒一君

河上 哲太君 松川 昌藏君 樋口善右衛門君 小野廉君補闕 大内竹之助君
 一ノ關俊民君補闕 川崎巳之太郎君 服部 岩吉君 伊東 岩男君 庄司 一郎君
 石坂 豐一君 山崎 銀二君 阿部 茂夫君 椎尾辨匡君補闕 木村 武雄君
 伊豆 富人君 笠井 重治君 村上 元吉君

會計検査院法中改正法律案(政府提出)外四件委員
 委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ニ關スル法律案(政府提出) 調查ニ關スル件(政府提出) 貴族院送付(第六一號)
 貴族院送付(第五八號) 裁判所構成法中改正法律案(政府提出)(第七八號)
 大正十一年法律第五十二號中改正法律案(統計資料實地) 恩給法中改正法律案(政府提出)(第八一號)

委員長 古屋 慶隆君 松井郡治君補闕 則元卯太郎君 理事 木原七郎君 理事 金澤 正雄君
 理事 則元卯太郎君 理事 木原七郎君 理事 金澤 正雄君
 理事 淺井 茂猪君 松井郡治君補闕 則元卯太郎君 木原 七郎君 清水 德太郎君
 古屋 慶隆君 則元卯太郎君 木原 七郎君 清澤 正雄君
 眞鍋勝君補闕 福田關次郎君 南雲 正朔君 村瀬武男君補闕 長井 源君 金澤 正雄君
 金井 正夫君 泉國三郎君補闕 星 一君 木村作次郎君 服部 岩吉君
 庄司 一郎君 淺井 茂猪君 菊地養之輔君 中原 謹司君

永山忠則君補闕
小田榮君其ノ補闕
三浦 虎 雄君 松村光三君

金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル
法律案(政府提出)外一件委員

自動車交通事業法中改正法律案(政府提出)(第八四號)

委員長 名川侃市君

理事 山田 清君 理事 小泉純也君 理事 小平重吉君補闕 昭君

理事 田中 好君

山田 清君 小泉純也君 小山倉之助君 村松久義君

木原七郎君補闕 良君 愛野時一郎君 山田順策君 小平重吉君

長野 綱 昭君 簡牛凡夫君 本田義成君 名川侃市君

羽田武嗣郎君補闕 紅露 淺沼稻次郎君 小山 亮君

田中 好君 伊東岩男君 安藤孝三君 行吉角治君

日本肥料株式會社法案(政府提出)外一件委員

農會法中改正法律案(政府提出)(第一〇三號)

委員長 熊谷直太君

理事 山田六郎君 理事 成島 勇君 理事 原 惣兵衛君

理事 河野一郎君補闕 牧野良三君其ノ補闕 河野 一郎君

眞鍋儀十君補闕 土屋 寬君 成島 勇君 松本忠雄君補闕 森田重次郎君 小野寅吉君

田中邦治君補闕 長野長廣君其ノ補闕 深澤 吉平君 山田六郎君 伊藤五郎君補闕 村上國吉君 熊谷直太君

原 惣兵衛君 倉元要一君補闕 吉植庄亮君 小 平 重 吉君 河野一郎君補闕 牧野良三君其ノ補闕 河野 一郎君

國光五郎君補闕 田中好君其ノ補闕 服部 岩吉君 西川貞一君補闕 世耕弘一君 野 溝 勝君 小山亮君補闕 吉田賢一君其ノ補闕 石坂 繁君

岩瀬亮君補闕 松村光三君其ノ補闕 野 溝 勝君 吉田賢一君其ノ補闕 石坂 繁君

平野力三君 村上元吉君

軍用電氣通信法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

要塞地帶法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第九二號)

宇品港域軍事取締法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第九四號)

委員長 山本厚三君

附錄 第三 委員

理事 中井川 浩君 理事 高橋泰雄君
 山本厚三君 中井川 浩君 藤田若水君補闕
 高橋泰雄君 船田 中君 古田喜三太君
 青木作雄君 增永元也君 木原七郎君
 龜井貫一郎君

國民優生法案(政府提出)外二件委員

顛覆防法中改正法律案(政府提出)(第一〇四號)
 國民體力管理法案(政府提出、貴族院送付)(第一〇九號)

委員長 八木逸郎君 泉國三郎君補闕
 理事 村松久義君 理事 伊藤東一郎君 理事 江原三郎君
 理事 中野寅吉君

八木逸郎君 村松久義君 伊藤東一郎君 青木亮貫君
 中崎俊秀君補闕 信太儀右衛門君補闕 西田郁平君 野方次郎君
 渡邊 健君 山田 清君 會和義 弋君 中野寅吉君
 泉國三郎君補闕 江原三郎君 伊東岩男君補闕 杉山元治郎君補闕 田中養達君
 世耕弘一君 石坂豐一君 河合義一君
 三浦虎雄君補闕 守屋榮夫君 太田正孝君

農產物檢查法案(政府提出)外一件委員

日本輸出農產物株式會社法案(政府提出)(第一〇二號)

委員長 末松偕一郎君 吉植庄亮君補闕
 理事 木原七郎君 理事 森下國雄君 理事 馬岡次郎君
 理事 伊東岩男君 村上紋四郎君補闕
 末松偕一郎君 木原七郎君 森下國雄君 長野綱良君
 成島 勇君 內藤守正君 渡邊 健君 吉植庄亮君
 樋口善右衛門君 馬岡次郎君 高橋熊次郎君 伊東岩男君
 東條 貞君 田中好君補闕 菊地養之輔君補闕 大石 大君
 森 幸太郎君 前川正一君
 北 勝太郎君 松村光三君補闕 岩 瀨 亮君

神宮關係特別都市計畫法案(政府提出、貴族院送付)外一件委員

都市計畫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第一〇〇號)

委員長 出井兵吉君
 理事 小柳牧衛君 理事 長野高一君 理事 羽田武嗣郎君
 理事 田中 好君
 小柳牧衛君 長野高一君 勝田永吉君 長井源君

池本甚四郎君 塚本三君 卯尾田毅太郎君 出井兵吉君
 羽田武嗣郎君 濱地文平君 簡牛几夫君 田中好君
 世耕弘一君 瀧澤七郎君 淺沼稻次郎君 青木作雄君
 小田榮君 武田德三郎君

青年禁酒法案(高橋壽太郎君外十三名提出)外六件委員

助產師法案(紅露昭君外三名提出)(第二二號)
 產師法案(土屋清三郎君外九名提出)(第二四號)
 理容師法案(土倉宗明君外二名提出)(第二三號)

理容師法案(內藤正剛君外三名提出)(第二三號)
 浴場法案(內藤正剛君外四名提出)(第一九號)
 治療師法案(長野綱良君外十二名提出)(第二〇號)

委員長 中野寅吉君
 理事 深澤吉平君 理事 山本厚三君補闕
 理事 野口喜一君 理事 村松久義君 理事 江原三郎君
 田中邦治君補闕 寬君 深澤吉平君 土屋清三郎君 山本厚三君補闕
 土屋 堤康次郎君 工藤鐵男君補闕 高橋壽太郎君 內藤正剛君 村松久義君
 山川賴三郎君 石井德久次君 野方次郎君 野口喜一君 野口喜一君
 世耕弘一君補闕 北浦圭太郎君補闕 守屋榮夫君 武田德三郎君補闕 村上元吉君
 中野寅吉君 河合義一君 野口喜一君 田中養達君補闕 小山亮君

裁判所構成法改正法律案(野田文一郎君外二十三名提出)外七件委員

檢察廳法案(野田文一郎君外二十三名提出)(第三號)
 民事訴訟法中改正法律案(原夫次郎君外四名提出)(第六號)
 辯護士法中改正法律案(清瀨一郎君外三名提出)(第一四號)
 刑事訴訟法中改正法律案(清瀨一郎君外三名提出)(第一號)

五號
 行政書士法案(內藤正剛君外二名提出)(第一六號)
 行政書士法案(塚本重藏君提出)(第一七號)
 司法書士法中改正法律案(內藤正剛君外二名提出)(第一八號)

委員長 野田文一郎君
 理事 今成留之助君 理事 高橋義次君 理事 金澤正雄君
 理事 本田英作君
 野田文一郎君 池田清秋君 今成留之助君 內藤正剛君
 高橋義次君 原玉重君 森田重次郎君 金澤正雄君
 高橋泰雄君 松川昌藏君 井阪豐光君 本田英作君
 名川侃市君 中井一夫君 菊地養之輔君 石坂繁君
 長谷長次君 行吉角治君

衆議院議員選舉法中改正法律案(今井健彦君外七名提出)外九件委員

計理士法中改正法律案(中野治介君外一名提出)(第四號)
 農家世襲財產法案(林平馬君外三名提出)(第五號)
 農地國家管理法案(大石大君外十名提出)(第七號)
 檢査計理士法案(森田重次郎君外二名提出)(第八號)
 愛國航空獎券發行ニ關スル法律案(安藤孝三君外三名提出)(第九號)

恩給法中改正法律案(片山哲君外二名提出)(第一〇號)
 建築士法案(野村嘉六君外七名提出)(第一一號)
 樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法律案(石坂豐一君外四名提出)(第一二號)
 地方食品卸賣市場法案(手代木隆吉君外九名提出)(第一五號)

委員長 寺田市正君

理事 村瀬武男君 理事 則元卯太郎君 理事 金井正夫君

理事 名川侃市君

村瀬武男君 則元卯太郎君

山道襄一君 八並武治君

眞鍋勝君 勝田永吉君

川副隆君 寺田市正君

金井正夫君 泉國三郎君補闕
沖島鎌三君

紅露昭君 名川侃市君

牧野良三君 若宮貞夫君補闕
松尾孝之君

永江一夫君補闕
三輪壽壯君 清瀨一郎君

北浦圭太郎君 田中源君

開院式 勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 增田義一君

理事 紅露昭君

增田義一君 飯田助夫君

高木糸太郎君 菊池良一君

津原武君 村上紋四郎君

重松重治君 坪山德彌君

工藤十三雄君 紅露昭君

井上知治君 野田俊作君

生田和平君 國光五郎君

岡崎憲君 椎尾辨匡君

津崎尚武君 武田德三郎君

紀元二千六百年祝賀上奏文起草ノ件委員

委員長 山道襄一君

理事 北原阿智之助君 理事 信太儀右衛門君 理事 熊谷直太君

理事 大石倫治君

山道襄一君 添田敬一郎君

木槍三四郎君 北原阿智之助君

信太儀右衛門君 鈴木憲太郎君

村上紋四郎君 熊谷直太君

河上哲太君 匹田銳吉君

陣軍吉君 安藤正純君

猪野毛利榮君 大石倫治君

鈴木文治君 椎尾辨匡君

熊谷五右衛門君 金光庸夫君

昭和十五年十二月十九日印刷
昭和十五年十二月二十一日發行

衆議院事務局

印刷者 內閣印刷局

733

內閣
來
光緒十五年十二月廿六日



